

Ⅰ. 私たちの目指すところ

1. グレースコミュニティ・ビジョン

Grace Community Vision

1. 全世界に対する神の主権

エゼキ36:22-24

3:22 それゆえ、イスラエルの家に言え。神である主はこう仰せられる。イスラエルの家よ。わたしが事を行なうのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った諸国の民の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。

36:23 わたしは、諸国の民の間で汚され、あなたがたが彼らの間で汚したわたしの偉大な名の聖なることを示す。わたしが彼らの目の前であなたがたのうちにわたしの聖なることを示すとき、諸国の民は、わたしが主であることを知ろう。

——神である主の御告げ。——

36:24 わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。

このみことばはエゼキエルを通しての「エルサレム回復の預言」だ。預言は、重なり一つに見える山に例えることができる。手前の山はバビロン捕囚からの帰還(BC538-445)を、そして後方の山は、1948年の建国以降の300万人にもものぼるユダヤ人の帰還を指している。かつて山は一つに見えていた。私たちは今、この歴史的出来事の二つの山を並べて同時に見て、神の預言の確かさを知る。そして同時に、この出来事は「あなたがたのためではなく」とあるとおり、神の主権による!!と知ることができる。

私たちは、教会創立三十周年(2006年)イスラエル・ビジョンツアーのおり、ヤド・バシテム「国立ホロコースト記念館」を見学し、ユダヤ人のたどったさばきの歴史を知って色を失った。そして帰途、ゲート裏面に次のヘブル語が記されているのに気づいた。

エゼキ37:14

37:14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入ると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。——主の御告げ。——



「諸国の民は、わたしが主であることを知る」ために、今、神はご自身の約束に忠実に、そして主権的に「事を行って」おられる。この事と関わって

2. 日本に対するみこころ

エレミ31:7-10

31:7 まことに主はこう仰せられる。「ヤコブのために喜び歌え。国々のかしらのために叫べ。告げ知らせ、賛美して、言え。『主よ。あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』

31:8 見よ。わたしは彼らを北の国から連れ出し、地の果てから彼らを集める。その中にはめしいも足なえも、妊婦も産婦も共にいる。彼らは大集団をなして、ここに帰る。

31:9 彼らは泣きながらやって来る。わたしは彼らを、慰めながら連れ戻る。わたしは彼らを、水の流れのほとりに導き、彼らは平らな道を歩いて、つまずかない。わたしはイスラエルの父となろう。エフライムはわたしの長子だから。」

31:10 諸国の民よ。主のことばを聞け。遠くの島々に告げ知らせて言え。「イスラエルを散らした者がこれを集め、牧者が群れを飼うように、これを守る。」と。

エレミヤを通しての「解放と新しい契約」の預言のとおり、現在、ユダヤの人口の五分の一にも相当する人々が「北の国から」・旧ソビエト連邦から移住している。それは「イスラエルの父」によること。神の家族には多くの子どもたちがいる。「子としてくださる霊」を受け、「アバ・父よ」(ローマ 8:15)と呼ぶ、国も民族も違う子たちが……。

そして私たち日本人は「諸国の民」の一部であり、「遠くの島々」に置かれている神の子どもたちなのだ。「牧者が群れを飼うように」イスラエルを回復しておられる父のもとに、私たちも古いパラダイムを捨てて、神の目的と計画に立った「新しいビジョンを抱かなければ」ならない。私たちは「今がどんな時か知っているのですから」(ローマ 13:11)、主の御声を聞き、絶対的に従うことを始めたい。神の民はビジョンにおいて成長するのだから。だから、時の理解は私たちの生き方を決定づける。そして聖書は語り続ける。

3.今は、異邦人の完成のなる時

ローマ11:25-27

11:25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、

11:26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。

11:27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」



私たちは、ケヒラット・ハカルメル(カルメル集会)を訪問し、既にユダヤ人と異邦人が一堂に会し、共に礼拝を捧げている歴史的事実を目撃した。つまり「異邦人の完成のなる時」とは、まさしく「今」なのだ。

それはまず、未だ救われていない多くの民族、人種の数が増えることであり、次に、未だ完成を見ていないキリストのからだの霊的成長と一致(エペソ4:13)が成るときを意味している。

そしてこの終わりのときに仕える新しい教会は、

- ①終わりの時におけるイスラエルの預言的な意味を理解し、ユダヤ人と異邦人が一致して「新しい一人の人」となって礼拝する。
- ②世界の未踏の地へのビジョンを持っている。これは、国々の人々を教え「弟子となさい」と言われたイエスの命令に従うことだ。これは単に教会員の数が増えることだけを言うのではない。「弟子を造る」ことは、社会のあらゆる分野に弟子たち

を遣わすこと、つまり政治、経済、娯楽、また教育やメディアの分野に送り出すことを意味する。

③超教派で、教会組織の教師や大祭司、教会権威に縛られない。

④地域の共同体を越えて権威を与えられている本物の使徒、預言的リーダーがいて、彼らは与えられている霊的賜物や人格、また働きの実によって判断される。

⑤地域、あるいは全国のグループが、世界中の似たようなビジョンを持つグループとネットワークでつながっている。

「神の津波」194pピーター・ツカヒラ著

福音には”救いの福音”と”御国の福音”があり、救いの福音を強調するとき自分の教会のことをのみ考える傾向にある。しかし御国の福音に立つ教会は、世界的なビジョンに歩む。「与えるほうが幸い」（使徒 20:35）との主イエスの理念を覚えて、終わりの時に仕える新しい教会のあり方を熟知し、真摯に祈り求めて行きたい。つまりそれは

4. 御国の福音を宣べ伝える

マタイ 24:14

24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。

今、アジアやアフリカはリバイバルの時代を迎えている。そして彼らは共通した方向性を持っている。それは「エルサレムへ帰れ」ビジョンをもっていることだ。「天国の人」のブラザー・ユンはその著書において、以下のように語る。

「私たちが『エルサレムへ帰れ』について語るとき、エルサレムが主たる目的ではないということを、わかっていただきたい。そこで開かれる大きなカンファレンスに出席するために急ぎ行くのではない。エルサレムは二千年前、福音が始まった地であるが、福音は世界を一巡りして、そのスタート地点に戻ってくると私たちは信じている。私たちの目的は、エルサレムの街で福音を伝えるだけではなく、中国からエルサレムの間にある何千というまだ福音の届いていない民族、町に福音を届けることだ。」

私たちも、日本からエルサレムの間にある未だ福音の届いていない民族、国に御国の福音を宣べ伝えるビジョンと方策を祈り求めたい。そのためには価値観が問われる。

5. 後のものが先に

ルカ 13:22-24

13:22 イエスは、町々村々を次々に教えながら通り、エルサレムへの旅を続けられた。

13:23 すると「主よ。救われる者は少ないのですか。」と言う人があった。イエスは、人々に言われた。

13:24 「努力して狭い門からはいりなさい。なぜなら、あなたがたに言いますが、はいろうとしても、はいれなくなる人が多いのですから。」

日本のクリスチャンは少数派なので、「こんな私たちは何ができるのか」という思いにもさせられる。しかし日本人は、あの戦後の焼け野原から見事に国を建て上げて、今や

世界中に影響を与えたリーダーたちの輩出された地だ。

間もなく来ようとしている日本のリバイバルは、教会に閉じ込められたものでなく、社会のいろいろな分野でいっせいに起こり始めるだろう。そして彼らは、福音の力に目覚め、日本を危機から救い出し、社会的、霊的な改革の新しい時代に導くだろう。

ルカ 13:29-30

13:29 人々は、東からも西からも、また南からも北からも来て、神の国で食卓に着きます。

13:30 いいですか、今しんがりの者があとで先頭になり、いま先頭の者がしんがりになるのです。

神の国の霊的な原則は「後のものが先頭になる」のだ。だから小さいことではなく、ビジョンを持たないことが問題なのだ。

「誰も自分ひとりだけで生きることはいない。どの民族(国)も一つだけで存在することはない。日本の使命は十億人(現在は三十億)のアジア人と密接に結び合わさっており、私たちが真理に基づいて行動するかどうかなのだ。」 (内村鑑三)



私たちは、教会の創立以来「世界宣教足元から。家族をキリストへ。」と祈り続けて来た。このグレースコミュニティ・ビジョンも「家の教会」に取り組み、「エリヤハウス」のミニストリーを導入して行くプロセスのなかで、主イエスが導かれたものだ。その本質は「家族の回復」であり、その方策はイエス様が意図された教会(マタイ 16:18)であり、ご自身「その中にいる」小さな集まり(マタイ 18:20)なのだ。小さいからこそ、ビジョンを担うに十分なあり方なのだ。

つまり家々に集まる「家の教会」(使徒 2:46 ローマ 16:5)は、神の家族であり、そこに家族や友人を招いて分かち合う関係が土台だ。これは、家族の回復を通して教会が変えられ、国が建て上げられていく神の奥義でもある(マラキ 4:5-6)。その関係とは

6.すべての民に好意を持たれる

使徒2:46-47

2:46 そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

2:47 神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。

教会はその誕生の初めからくすべての人々に恵み(**Grace** 主のイエスの恵み、魅力)を持つ存在だった。それは自分が主からいただいた恵みを隠さない正直な互いの生き方にある。それは愛し合い、仕え合う関係にあふれる。そして世界大のビジョンを持ち続ける群

れに注がれた主のご期待とご計画である。そこで私たちは、自らをこのビジョンのゆえに以下のように呼ぶ。

7. グレースコミュニティ

「恵みによって始まり、恵みによって進み、恵みを示す共同体」



-恵みを示す共同体の五つの鍵-

- G**rowing together 互いの成長に仕え合う生活。
- R**eaching out 家族や友人をイエス様に導く共同体。
- A**ctively using our gifts 賜物が互いのために活かされる交わり。
- C**ell multiplication いのちがあふれ成長し続ける、家の教会。
- E**quipping leaders 模範によってリーダーが育てられる群れ。

リバイバルのための祈りは積まれて来た。日本のクリスチャンがビジョンをもって一歩踏み出して行くな、社会のあらゆる領域で、メシヤによる新しい命が広がって行くだらう!!

2. Mission2020

---達成理念と方策---

Mat28:18-20

①礼拝:わたしは共にいます	②宣教:出て行きなさい
1.二次元的本質による礼拝 ①「称え祭る礼拝」②「黙想的な礼拝」 2.主権と臨在に満ちた礼拝 ①預言的な礼拝②とりなしの礼拝③宣教的な礼拝 3.各世代の文化に適合 ①キッズ②ジュニア③ユース④シニア⑤シルバー 4.奉仕者の発掘と養成 ①アッシャー②ワーシップリーダー ③ワーシップチーム④ダンシングチーム ⑤スキットチーム⑥ビジュアル化 5."真の礼拝者"となる ①家の教会の礼拝②礼拝者生活 <i>Worship 250 x 4</i>	1.「家の教会」の継続的増殖 ①G・Cセミナー②KHリーダー会③コーチングセミナー 2.「家族の回復」の達成 ①家族の回復②地域の祝福③日本の救い 3."収穫の時"に備える ①アルファ関連②ファミリーライフ③入門クラスの習熟 4.地域ニーズに仕える ①チャーチスクール②拡大コンサート③給食ミニストリー ④心の相談室⑤NPOグレース工房⑥その他 5.働き人の派遣 ①短期宣教②道国内3人③国外2人 ④リバ・祈り会⑤パートナーシップ <i>Salvation 365</i>
Community 100	World View 12
1.愛し合う神の家族 ①誠実な関係と家の教会生活 ②祈りのミニストリー実践 ③賜物の活用 2.ビジョンに仕える群れ ①「目的とビジョン」明示 ②ビジョン・M③PORT 3.隣人に仕える(ホーリスティックミニストリー) ①心の相談室②マリッジコース ③離婚リカバリー ④ベアレンディング⑤ラブ札帳⑥共同ホーム⑦弁当チーム 4.地域の全てに配置する ①コミュニティ100 ②SV25 ③ZP7 5.北海道に仕える ①家の教会(セミナー)②EHJ(セミナー)③アルファ(体験)	1.ミニストリーと変革 ①EHJスクール ②EHJアドバンス ③EHJセミナー ④EHJワークショップ 2.リーダー養成とバトンタッチ ①バルナバ・ミニストリー②フィニッシュ・ウェル 3.宣教のための聖書教育 ①旧約の歴史②イエスの生涯③初代教会の歴史 ④ナタナエル神学ラス⑤教理クラス 4.弟子として全人的整え ①ホームスクール②C-BTE基本原則③リーダーシップ 5.エンドビジョンと終末宣教 ①対策室と整え②イスラエルの祈り③アジアへの奉仕
③共同体:バプテスマを授けなさい	④牧会:守るように教えなさい



3 チャレンジ！ザ・コミュニティ 100



4.日本の「家」と家の教会

-日本のイエ・ムラ・クニの視点から-

「これからの日本宣教」(東京ミッション研究所編参照)

1. 日本の「家」の基本的な特徴

1. 超血縁性: 共同体の中のものは家の者。
2. 系譜性: 先祖の死者も含めた構成メンバー。
3. 階続性: (ヒエラルキー) 上に頭があって下に子分がいる。
4. 自立性: その共同体のみで自立していて、他者が入ることが出来ない。

2. 「家」の心理「内と外」の特徴

1. メンバーとしてのアイデンティティー
内の者の意識と、他の社会のものには外の者という意識。
2. そのグループの情感
グループの人たちの間柄の独特な心理によって拘束。
3. グループ内での様々な「分」を持つ
そのなかで立場を持つ。
4. グループそれ自体が主体化
個人は集団に埋没しがちになる。

3. 日本の家と宗教

日本人は基本的には神道(アニミズム)
外来の宗教は日本的に変えて受け入れる
神概念はきわめてあいまい
だから相対的な人間、自然のみがある
間柄の関係において存在する文化



4. 「家の教会」にこそ可能性がある!!

1. 神観を明確にする
⇒観念としてではなく、生活の中で神を現わす。
2. 人間関係を大切にする
⇒オイコスが「義理」から個人的な親密さへと。
3. クリスチャンの家庭観の確立
⇒真に祝福を証しする存在となる。
4. キリストの愛の確立
⇒置かれた所で、小さな群れとして、仕える。

II.家の教会の本質

1.家の教会とは 聖書が示している教会



ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。(ヘブル 10:25)

1. 共同体としての生活

「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」(ヨハネ13:43-35)

2. 一人ひとりが大切に

「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」(エペソ 4:16)

3. 人間関係による救い

「その家に泊まっていて、出してくれる物を飲み食いしなさい。働く者が報酬を受けるのは、当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。どの町にはいっても、あなたがたを受け入れてくれたら、出される物を食べなさい。そして、その町の病人を直し、彼らに、『神の国が、あなたがたに近づいた。』と言いなさい。」(ルカ 10:7-9)

4. リーダーが養成される

「あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。」(I ペテ 5:2-3)

5. 命に溢れ成長し続ける

「こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、(信者の数が)ふえて行った。」(使徒 9:31)

2.家の教会生活と集会

-使徒の働き 2:41-47-



1. 加えられた者たちの生活 (42-45v)

彼等は……いた (主動詞: εἰμὶ「～です」の 未完了) 42v:存在

- └ ①教えを堅く守り
- └ ②交わりをし
- └ ③パンを裂き
- └ ④祈りをして

そして……行われた (主動詞: γίνωμαι「なった」の 未完了) 43v:起源

- └ ⑤恐れる心と力あるわざ

信者たちは……していた (主動詞: ἔχω「持つ」の 未完了) 44-45v:所有

- └ ⑥いっしょにいて (2:47 仲間に:一緒にいる事の共有)
- └ ⑦いっさいの物を共有に (4:32-37 地所や家を売って)

2. 信じた者たちの集会 (46-47a)

- ┐ 宮に集まり<専念し:堅く守り>
- ┐ 家々でパンを裂き

彼等は……共にし (主動詞: μετέλαβαν「共に受ける」の 未完了)

- └ 食事を共に
- └ 神を賛美し
- └ すべての民に好意(恵み)を持ち

建て上げ

3. 主も……加えてくださった (主動詞: προσέθημι「加えて置く」の 未完了)

- └ 毎日
- └ 救われる人々を
- └ 仲間に(原・になし)

宣教

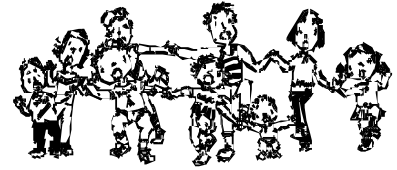
- 1.エルサレム教会は、市内に散在する「家の教会」だから、3,000 人(総勢凡そ 12,000 人)をも牧することができた。
- 2.宮で一堂に会するほかに、生活の中でみことばと祈りをし、互いに愛し合っていたので、命に溢れていた。
- 3.家々での小さな交わりだから、互いの必要を満たす事が出来、かつそのことが家族ぐるみの回心にも繋がった。
- 4.十字架の「恵みを現す」互いに愛し合う生活だから、主も毎日、救われる人々を仲間に加えてくださった。
- 5.「教会の奉仕」も「主の働き」も未完了の事実で、この時から始められた教会の成長は今も変わることなく継続している。

分かち合いのために

- ①初代教会の生活の七つの特徴は、私たちとどのような点で似ているか? どこが違うか?
- ②その集会の「建て上げと宣教」の原則は、私たちの教会では、何を取り入れられるか?

3.小さなグループとリーダー

-ルカ 6:12-19-



1.多くの弟子たちの群れがいた(12,17v)

- ①イエス様は、「弟子たちと共に働こうと」しておられる。今も。
- ②「祈るために山に行き」その決意、「祈りながら夜を明かされた」みこころを知ろう!!
- ③山に登られたのは、「彼らと共に山を下り」人々の必要に応えるため。
「別に 70 人を定め、ふたりずつお遣わしになった」(10:1)

→目的のため

2.その中から 12 人を選ばれた(13-16v)

- ①小グループでの人間関係とその機能をより効果的に用いるために。
- ②弟子のひとりひとりが、性格や賜物など自分らしく最も用いられるために。
- ③宣教のリード、イエス様の生涯の記録、その他目立たなくても忠実に仕えるために。

→機能的に

3.近くにあって小グループに仕える三人

イエス様は、ペテロとヤコブとヨハネとは特別に時間を共にされ、分かち合われた。それは、恵みに応じてリーダーシップをとり、他の人々に仕えるためだった。

- ・ヤイロの病室で(マルコ 5:37, ルカ 8:51)
- ・変貌の山で(マルコ 9:2, マタイ 17:1, ルカ 9:28)
- ・ゲッセマネで(マルコ 14:33, マタイ 26:37)

→リーダーシップ

彼等にとって共通の役割は、小グループで親しく交わったイエス様を伝えることだ。主の私たちに対する目的は主御自身であり、主の方法は小グループに集中することだった。

分かち合いのために

- ①小さなグループにはどんな良い点・可能性があると思うか。考えられる弱さは何か?
- ②グループの中での役割の違いは、何のためと思うか?どんな点で注意が必要と思うか。

4.いつも一緒にいて育てる

-マルコ 3:13-19-



〈序〉「十二弟子を任命された。」

直訳「十二人を作った。立てた。」

それには12人をひとつのグループとして作り、使徒として立てたというニュアンスがある。それには三つの目的があった。

1. 身近に置くため

それは、直訳「いつも一緒にいて」、家族のように生活を共にすることによって、深く交わり、主御自身と分かち合うためであった。神の家族として小さなグループだからこそ、その交わりを深くすることが出来る。

2. 宣教に遣わすため

一箇所に集る大集団よりは、多数の小グループであるほうが、より多くの人々と接点・個々の必要に会わせて人間関係をもつことが出来る。

その土台の上に、イエスは弟子たちに使命を注ぎ、模範を見せて委任をされた。それがより効果的に「福音を」宣べ伝える弟子とする方法なのだ。

3. 権威を持たせるため

人の救いは霊的戦いでもある。クリスチャンはその霊的戦いの最前線に遣わされている。福音宣教と共に、みことばを確かなものとするために”しるし”としての力ある業をなすため(使徒 2:22)、イエスはご自身の権威を授けられた。

また

弟子たちは、小グループの中で互いに仕え合うことを学んで、イエス様の権威・命を捨てる権威(ヨハネ 10:18)※を身に着けていった。

※ ε ξ ο υ σ ι α : 偉大な選択の自由・捨てる自由・得る自由・服従する自由

権威を祈り求めよう!!

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう。

(ヨハネ 14:12-14)

分かち合いのために

- ① 小さなグループでの深い交わりは、どんな結果をもたらすと思うか？ 難しさは何か？
- ② 人々の必要と効果的な伝道にはどんな関係があるか？ そのため、あなたに何が必要か？

5. 建て上げと宣教

-教会成長の二側面-

1. 「使徒の働き」にみる教会の成長

1:8 聖霊の力 → エルサレム、ユダヤ、サマリヤの全土、地の果てまで

	//	//	//
聖書箇所	1:1~8:3	8:4~12:25	13:1~28:31
教会成長を記す箇所	└6:7	└9:31 └12:24	└16:5 └19:20

2. エルサレムでの教会の成長

6:7 こうして神のことばは、ますます広まって行き (未完了 : 成長)
エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。 (未完了 : 増加)
そして、多くの祭司たちが次々に信仰にはいった。

3. ユダヤ、サマリヤの全土での教会の成長

9:31 こうして(その)教会は(定+単)ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり、
築き上げられて (未完了・能) 平安を保ち、
主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、(信者の数が) 増えて行
った。 (未完了・受 : 増加)

12:24 主のみことばは、ますます盛んになり (未完了 : 増加)、
広まって (未完了 : 成長) 行った。

4. 地の果てまでの教会成長

16:5 こうして諸教会(定+複)は、その信仰を強められ (未完了)、
日ごとに人数を増やして (未完了 : 溢れる) 行った。

19:20 こうして、主のことばは驚くほど広まり (未完了 : 成長)、
ますます力強くなって (未完了 : 体力) 行った。

5. 教会成長の二つの側面

「使徒の働き」は、教会の成長の様子を二つの面で記していると言える。まず、みことばによって教会が建て上げられる。そして結果的に、地域的に数量的に宣教が進んでいく、と記している。

約 束	聖霊があなたがたに臨む あなたがたは力を受ける	地の果てにまで わたしの証人となる
エル サレム で	6:7 神のことばは、 └広まって行き α υ ξ α ν ω <成長>	& 一弟子の数が増えて π λ η θ υ ν ω <充満>
ユダとサマ リヤの全土 で	9:31 教会は、(定+単) └築き上げられ┐ └持ち └前進させられ┐ ε χ ω によって ・主への恐れと ・聖霊の励まし 12:24 主のみことばは、 └直・成長し α υ ξ α ν ω	& 増えて(信者の数が・原文にない) π λ η θ υ ν ω & 一充満して行行った。 π λ η θ υ ν ω
地の果て にまで	16:5 諸教会は、(定+複) └信仰を強められ σ τ ε ρ ε ο ω <しっかりした> 19:20 直・主の実力によって 主のことばは、 └広まり α υ ξ α ν ω	& 一人数を増やして行行った。 π ε ρ ι σ σ ε υ ω <過度の、溢れる> & 一力強くなって行行った。 ι σ χ υ ω <健康>
今 も	建て上げ (未完了)	宣 教 (未完了)

教会が地の果てをめざして前進していくプロセスには、みことばと聖霊によって、信じた人々の徳が高められ・建て上げがなされ・霊的な成長がなされていく。
そして結果的に、救われる人々が加えられ、人数が増え、教会は健康的に成長し、強められていく。つまり、「建て上げと宣教」が家の教会の二本柱となる。そのためには、信仰と互いの愛、誠実な関係が鍵となる。

III.家の教会生活

1.家の教会の一員であること

1 章. 神に起源を持つ者と エペソ 1:3～14

私たちは、霊的祝福を受けた。父なる神のご計画、御子イエス・キリストによる実現、聖書の保証によって「家の教会」は建てられた。私たちは、その「キリストのからだ」である教会の一員とされた。

2 章. 神の家族の一員と エペソ 2:19～22

罪の中に死んでいた私たちは、恵みによって生かされた。私たち「家の教会」は、「神の家族」であり、聖霊によって「神の御住まい」となる。だからクリスチャンは、互いを必要とする。

3 章. 奥義の実現のために エペソ 3:5～10

「家の教会」は「キリストの奥義」の実現のために仕える。それは、キリストのいのちを宣べ伝えること。つまり、人々を共同体生活に招き、「人知をはるかに越えたキリストの愛を」経験するためなのだ。

4 章. 御霊による一致を エペソ 4:1～16

「家の教会」では、御霊によってひとりひとりの賜物が活かされて「奉仕の働き・人々の救い」のために一つとされる。互いが「組み合わせられ、結び合わされ、建てられ」、愛のうちに成長させられる。

5 章. 御霊に満たされた関係 エペソ 5:18～33

「家の教会」に御霊は満たされて、「キリストを恐れ尊んで、互いに従う」ものとなる。教会とは家族であり、夫婦の愛が土台であり、子どもと父、奴隷と主人の人間関係をオイコスと呼ぶ。その中心にいる神の祝福の担い手は、キリストを信じた男性である。

6 章. 霊的な戦いの勝利を エペソ 6:10～18

この世は、キリストから引き離そうとする悪魔の策略に満ちている。愛と真理によって結ばれた「家の教会」は、孤独な戦士ではない。神の武器をもって、霊的な戦いに共同体として勇敢に戦う、主の兵士たちである。

教会は神のご計画であり、その計画に仕えるために、私たちは互いを必要とする。「家の教会」の一員であることには、あなたの人生に大いなる意義を与える。

2.分かち合いとは

1. 家の教会生活と礼拝説教

日曜日には、家の教会として一堂に会して、牧師を通して、ビジョンにあって一つのメッセージが取り次がれ、日常へと遣わされる。

それぞれが日常の中で、学校にいる時、職場にいる時、家庭にいる時、買い物をしている時など、その時々、その場所で、メンバーがいる所が教会です。なので、日曜日に受け取ったメッセージによって具体的に生活の中で適用し、証をすることが「家の教会」生活となる。

2. 集会での分かち合い

家の教会の集会は、導かれたことや信仰生活を分かち合って「建て上げ」合い、家族や友人への「宣教」のために、互いに仕え合い、励まし合う。

そのことによって、毎日のクリスチャンライフが、さらに豊かなものとされる。

3. メンバーと分かち合う生活

神からのメッセージを分かち合うのは、集会の中だけでなされるのではない。そして、分かち合いは、言葉によってだけなされるものでもない。

日常の中で互いの必要を覚えて祈ること、そして実際に助け合うことも分かち合うことだ。

「信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。」使徒 2:44

それはまず、「いっしょにいる」ことだ。必要がある時、自分のスケジュールを変えてでもその人と一緒にいて、心を用い、時間を遣い、何かをしたりしなかったりする事だ。

そして、真の必要をもった人のために、自分の物を自分の物と言わないことでもある。

メッセージから受けたチャレンジを実際に行動に移すとき、互いに祈って支えたり、一緒にチャレンジをしたり、影からサポートしたりすることを通しての分かち合いも、とてもすばらしいものなのだ。

3.家の教会のメンバー

1. メンバーは、コミュニティの一員である

A. 新しい共同体、一つの体、すなわち神の家族・家の教会とされた。

I コリント 12 : 12~14

B. 互いの責任を負い合い、互いが機能し合い共に成長する関係に導かれた。

I コリント 12 : 15~27

2. メンバーは「オイコス」に属する

「オイコス」はギリシャ語で、奴隷や異邦人をも含む「家族」あるいは「家などの小さなグループ」を意味する。当時の家庭は職場であり、教会でもあった。クリスチャン、ノンクリスチャンを問わない、家族や友人たち。 ローマ 16:10, 11

3. メンバーは、互いに建て上げ合う

全てのクリスチャンは、互いの徳を高め合い、互いに仕え合うように召されている。

I テサロニケ 5:10~11

4. すべての御霊の賜物を活用する

①御霊の賜物は、互いを建て上げるための神様の手段である。

- ・ I コリント 14:26, 40 「徳を高めるために、適切に、秩序をもって」
- ・ 賜物は、人に仕えることによって用いることができる
なぜなら賜物は、教会を建て上げるために神が下さったものだからです。

②御霊の賜物は、信じ、発見することによって有効に活用される

- ・ 発見のために、『三色のミニストリー』を用いる。
- ・ その発見から判断し、リーダーと共に活用の可能性を祈る

③家の教会のなかで御霊の賜物を実際に活用し、結果を評価する

リーダーの守りの中で、恐れずに用いよう。

5. 救いのプロセスを通して訓練

ルカ 10:37

- ・ 他の人の救いの過程に仕えることによって、訓練されます
- ・ 救われたばかりの人の周りにはまだ救われていない人がたくさんいる。
ですからオイコスの救いを共に願い、伝道できるように助けて行く。

4.家の教会の五つの鍵(^{ファイブ}5 k e y ^{キー}s)

1. 霊的成長

これが家の教会の鍵の第一ポイントである。霊的成長は、共同体生活による「建て上げと宣教」における聖霊の働きである。

人格における成長・あり方における成長(Being) が、生活とその行動における成長(Doing)を決定づける。家の教会では、互いが互いに対して霊的成長の責任をもつ。「主の名において集める」この小さな交わり(マタイ 18:20)には、力がある。

2. 賜物の活用

霊的に新しく生まれた人に、神は御霊の賜物を与え、家の教会のなかでそれを用いられる。家の教会のなかに賜物を必要としている人がいる。

賜物の発見は

- ①重荷、可能性からの洞察
 - ②活用における満足感
 - ③繰り返し用いる
 - ④良い働きの結果
 - ⑤他の人による確認
- に、よってなされる

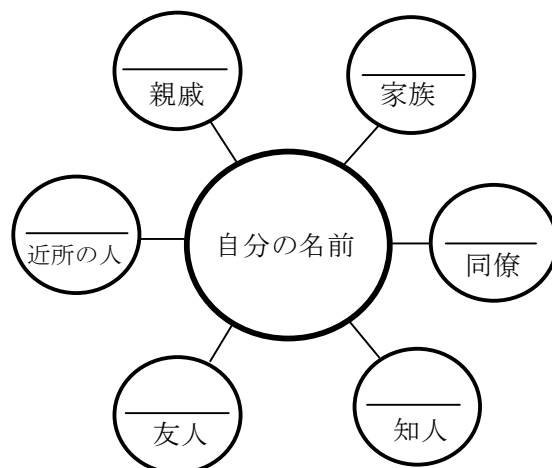
3. オイコス伝道

現在は、クリスチャンの70～90%が人間関係から導かれている。それほどに伝道は人間関係に基づき、そして関係の中で建て上げられる。

そのための5つのステップ

- ①自分のオイコス内の未信者を心にとめ、祈る(オイコス図参照)
- ②その人(たち)と関係を深める
- ③その人と家の教会の他のメンバーが関係を築くようにする
- ④この段階で初めて、証をし、福音を伝えキリストに導く--1分の証や、3.16を用いる
- ⑤その新しいクリスチャンが、自分のオイコス内の未信者に伝道するように助ける

オイコス図



4. リーダー養成

家の教会の成長は、リーダーの資質と働きにかかっている

1) 増殖にそなえて、インターン(リーダー候補)を立てておく必要がある

インターンに求めたいこと

- ①既に頭角を現している、影響力のある人
- ②新しい事を発見しようとする意欲がある人
- ③へりくだった心を持つ人
- ④自分に与えられている御霊の賜物を知って、それを活用できる人
- ⑤信頼し続ける心を持つ人

以上のような人がふさわしいが、5つすべてをクリアしていなくてもインターンをしている中で、変化していくこともあるので、可能性に目を留める。

インターンを育てるには

- ①まず自分が成長すること
- ②実地訓練 ～イエス様は弟子を現場で育てた

- a. I do - You watch (私がします。あなたは見ていて下さい)
- b. I do - You help (私がします。あなたは助けて下さい)
- c. You do - I help (あなたがします。私が助けます)
- d. You do - I watch (あなたがします。私は見えています)
- e. You do - Someone else watches (あなたがします。他のだれかがそれを見るようにします)

- ③良い模範があり、学ぶ必要を持ったとき人は良く学ぶ。人々に伝道したり、新しいクリスチャンを育てなければならない必要を感じたりするとき、人はさらに意欲的に学び、その学びがとても有効なものとなる。

2) バルナバタイムによる励まし

バルナバは、傍らに立って励ましを助けた。同じようにリーダーは、スーパーバイザーから励ましを受ける。定期的に、時間を共に過ごすことが大切なのだ。家の教会のことについて分かち合うだけではなく、生活についても分かち合うことが必要だ。

※「メンターとして仕える」ベンジャミン・ウォン著

3) リーダー会による訓練

リーダーは励ましを必要としている。そのためにリーダー会ではケーススタディーや技能的訓練のほか、ビジョンを共有し、互いが分かち合い、祈りをもって支え合う。

5. 家の教会の増殖・再編成

1) インターンを立てる

増殖のためには、新しいリーダーが与えられることが必要だ。リーダーがいなければ、増殖した時、2つの群れを一人のリーダーで牧会しなければならなくなるからだ。

2) 増殖のビジョン

最初の段階から、リーダーはメンバーに対して増殖のビジョンを伝え、オイコスの名前を挙げて祈り続ける。

メンバー一人一人が、増殖のビジョンを自分のものとなるように牧会していく。

3) インターンを育てることに力を注ぐ

リーダーの多くの時間を、インターンを育てることに費やす。リーダーがどのように人々を救い、育てているか、またそのためにも毎日、神様と生活しているかを現場で見せて行く、模範となるのだ。

4) リーダーが励ましを受け続ける

必要とされているという期待感が伝えられることが大切。そのためにもリーダーは、スーパーバイザーに対して、家の教会の活動とメンバーの霊的状况を報告する。リーダーが権威のもとに身を置くことによってリーダー自身が守られ、さらに神からの祝福を受けやすくなるからだ。

5. 賜物の発見と活用

成長と献身と愛のために

「どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて」

コロサイ人への手紙 1:9-11 には、ミニストリーの三つの領域の重要性について記している。知恵と献身と力である。また、新約聖書は三つの重要なリスト、ローマ 12 章、コリント人への手紙第一 12 章、エペソ 4 章を通して、御霊の賜物を発見し、活用するように語っている。

1. 教会の成長のために エペソ 4 : 1 - 16

- ①御霊が作り出した一致を 1 - 6 v
- ②新生した者に与えられる恵み 7 - 10 v
- ③指導者のもとで活用される 11 v

賜物の与えられた目的 12-16 v

【それは】働きのために聖徒を整え
《ついに》御子に関する知識の一致に
【それは】子どもではなく
《むしろ》あらゆる点で成長
【キリストによって】

からだ全体は…… Γ … 愛のうちに建てられる

└一つ一つの部分がふさわしく働く力:賜物の活用によって

└ 備えられたあらゆる結び目 : 動機としての愛によって

御霊の賜物が教会に与えられている目的は、全体的成長のためである。

まず、一人一人が新しい人として霊的に成長すること。【質的成長】

次に、群れの一員として、互いに愛し合い、仕え合う。【組織的成長】

そして、多くの未だ救われていない人々を救いに導く。【量的成長】

2. 献げ仕えて生きるため ローマ 12:1-10

- ①からだを神にささげなさい 1 v
- ②心の一新によって自分を変えなさい 2v
- ③慎み深い考え方をしなさい 3v →神のみこころを知る

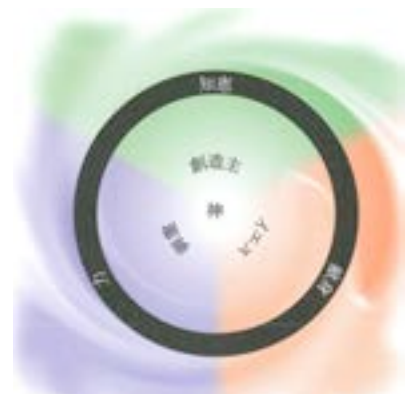
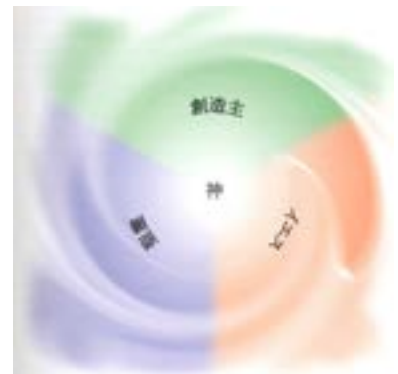
I テモ 2 : 4 神は……望んでおられます

└すべての人が救われて

└真理を知るように

賜物に対する正しい態度

4v : すべての器官が同じ働きをしない



5v : ひとりひとり互いに器官

6v : 異なった賜物を持っている

献身だけが問題解決の万能薬ではない。つまり、奉仕に思い通りの結果がないのは自分の献身が足りず信仰がないから、と自分を追い込まないことだ。主と人々に仕えるために「御霊の賜物を熱心に求めよう」。

3. 信仰と希望と愛のために I コリ 1 2 --- 1 4 章

①全てのクリスチャンに 1 - 3 v

②御霊の賜物の種類 4 - 1 1 v

いろいろな種類の賜物、 しかし同じ御霊	御霊 → 賜物	力
いろいろな種類の奉仕、 しかし同じ主	イエス → 奉仕	献身
いろいろな種類の働き、 しかし同じ神	創造主 → 働き	知恵

7v 教会のみなさんの益のために、11v その付与は、「みこころのままに」なされる。

③教会に与えられている賜物 1 2 - 2 7 v

- ・ 1 2 v 「ひとつのからだ」としての教会を形成するため。
- ・ 1 4 v 互いが「からだに属し」互いを「必要とする」ため。
- ・ 2 2 v 互いに「いたわり合う」ため。

みなさん ”同一” であることではなく、互いが違っていることで補い合い、組み合わせられ一つとなれるのだ。

④神は教会の中で任命された 2 8 - 3 1 v

3 1 v 「あなたがたは、熱心に求めなさい。」命令されている。賜物を有効に用いるための、さらにまさる道・方法」とは

⑤「愛がないなら！」 1 3 : 1 - 3

愛がないなら、何の値打ちもない。何の役にも立たない。

13v 「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」

賜物を行使するときの動機とは、主キリストを愛し、兄弟姉妹を愛する、その愛なのだ。聖霊が与えてくださるユニークな能力・賜物は、私たちが「家の教会」で互いに仕え合い、人々の救いに向かう時こそ有効に用いられる。

IV.家の教会の集会

1. 集会の進行と内容

1) 家の教会の集会

「使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた」（使徒2:42）

これは初代教会の姿で、家の教会（共同体）生活を示している。

「毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、食事をともにし、賛美し」

（使徒2:46,47）

これは、一堂に会することのほかに、家々で親しい生き生きとした集会をしていたことを示している。

週に一度の集会が家の教会ではなく、集会は「家の教会生活」の一部にすぎない。信仰生活を励ますために集会プログラムがあり、群れの中で聖霊が導き、神の臨在にふれ力をいただく大切な時となる。4つのステージの原則を確認しながら集会の目的を考えよう。

集会では、神を礼拝し、心を開いてみことばとメッセージをどのように生きたかを分かち合う。また、自分のことを話して荷をおろし助けられ、みことばによって祈りによって慰められ励まされていく。家の教会の両輪である建て上げと伝道に向かうための集会である。

目標「最上の交わりを保ち、愛と善行に励むように互いに勤める」ヘブル 10：24-25									
8.深い交わり									
7. ↑									
6.自発的になる									
5.打ち解け									
4.									
3. ↑									
2.									
1.関係形成途上									
時 間	10	20	30	40	50	60	70	80	90
信仰段階	WELCOME (交わりをし) 簡単な紹介		WORSHIP (パンを裂き) 賛美と祈り		WORKS (祈りをし) ビジョン	WORD (教えを固く守り) 励ましと進め・分かち合い			
目 的	個人からグループへ		人から神へ		神への応答	神から人へ			
結 果	互いを 知り合う		神の臨在に 引き上げられる		周囲の人々 に伝道を	更に関係を深め合い 分かち合いで学び・実践			

2) 集会でのリーダーの役割

- ・メンバーや新しい方が集会に参加できるよう、必要に応じて誘う。
- ・インターンと祈って準備する。
- ・4Wをリードする。
- ・インターン他と役割の分担を確認して備える
—4W全体のリードはあくまでもリーダーが取る—
- ・リーダーシップを発揮する重要な時となるので、群れ全体が建て上げられ、宣教に向かうために祈り、できる全てのことをする。
- ・メンバーに必要な報告をする。
- ・オイコス表（人間関係表）を用いてビジョンに基づく伝道へと励ます。
- ・インターンとともに集会の評価をし、その養育に責任を持つ。
- ・家の教会の報告書に記入し、定期的にスーパーパイザーに提出する。

3) 集会でのインターンの役割

- ・リーダーとともにメンバーや新しい方と連絡をとる。
- ・見習いとして努めてリーダーとともに過ごし、集会の準備をする。
- ・リーダーから4Wのステージを依頼されたら、良い機会として十分な準備をする。
- ・暖かい雰囲気、初めて来た人を歓迎するように心がける。

2. 各ステージ（4W）

1) WELCOME （ウェルカム：歓迎）

使徒2:42「・・・交わって」生きる関係を築く時。

まず、互いに歓迎しよう。挨拶や簡単な言葉を交わして終わる場合もあり、臨機応変に行う。

(1) 参加者全員が互いに知り合うとき

参加者一人一人が歓迎され、緊張をほぐし、心を開く手助けとなる時で、参加者の沈黙を打ち破り、打ち解け合うための時間。

- ・簡単な質問に答えたり、制限時間内に何かをやり遂げることをしたり、ゲーム的なこともするが、ゲームの時間ではない。
- ・共通の話題によって、表面的なレベルで結びつけ、皆が一つになる機会。
- ・必ずしも分かち合いのテーマと関連がなくても良く、多くのことを期待しない。
- ・秘訣は短い時間で次のステージに移ること。

(2) ウェルカムのいろいろ

- ・皆がグループに参加するためのもの

警戒心を取り除き、集まった人々が人目を気にせず、また、疎外感を抱かないような内容。参加者が動き回ったり、協力して時間内にやり遂げたりするもので、多くの人と触れ合うことができ、全体的ににぎやかになる。

例：人間ビンゴ、じゃんけん等

- ・より深く知り合うためのもの

メンバーについての知識や洞察力を養う助けとなる。名前、職業、趣味、家族のこと。メンバーの共通の興味を発見し、友情を深めるために役立つ。

例：自己紹介になるような質問を書いてもらい、誰のことかをあてる

- ・メンバー間のコミュニケーションを始めるためのもの

感情や悩みは表現しにくいものだが、このタイプのウェルカムは、メンバーの感情を話しやすくしてくれる。メンバーの最も深い感情が引き出される手助けになり、楽な気持ちで、表面的なレベルで分かち合える。

例：～について話そう（一番嬉しかったこと等）

- ・チームワークやグループの関係を励ますためのもの

なかなかグループに打ち解けることが難しい人にとって助けになる。

例：10分で仕上げるジグソーパズル、マッチ棒とボンドを使って作品を作る等

新しいメンバーで始まったばかりの時は、表面的で楽しめるものを、次により深く知り合うためのものを、さらに感じたことや思ったことを話していけるものを、そして、グループ内の協力が深まるためのものへと変化させていくと良い。話す内容の時には、できるだけすべての人に話すチャンスをつくる。また、内容だけではなく4Wの時間配分も変化させる。初めはウェルカムを長くし、他の3ステージを短くするなどして徐々に変化させ工夫する。

2) WORSHIP 〈ワーシップ：礼拝〉

使徒2:42「・・・パンを裂き」とは礼拝生活をさす。

ウェルカムで打ち解けあった中で、ともに神を礼拝する時。ウェルカムが人と人とを結び合わせるためのものであるなら、ワーシップは人と神とを結び合わせるためのものといえる。メンバーが現在の状態から、目を神に向け、神との交わりが深まることを目的とする。主の栄光を仰ぎほめたたえ、神と思いを一つにされ、群れから宣教の場へ遣わされていく。

(1) ワーシップを導く4つの原則

- ・自らが礼拝者であること

神はいつでもどこにでもおられる。神は賛美の中に住まれ、賛美する人々の内に特別な方法でご自分の存在を現わされる。イエスの御名によって集まることを意識し、誠実な参加者になる（ヨハネ4:24）。

- ・祈り、計画、訓練

準備の時間をとり、神がワーシップタイムを祝福してくださるように祈り求める。メッセージのテーマと内容から賛美曲・聖書・祈りなど、順序と流れを用意する。

- ・ワーシップ中は神に焦点を合わせる

神に集中し、信頼して任せる。聖霊の促しに敏感であるようにしたい。神の臨在を常に期待する。礼拝の雰囲気を保つために適当なテンポを守る。

- ・ワーシップ中にはしないこと

その場での選曲。また、不必要な説明やコメントなど。

(2) ワーシップの準備と賛美の選曲

メンバーが知らない曲や楽しんで歌えるかどうか分からない曲よりも、よく歌われている曲を選ぶほうが良い。メッセージテーマに注意を払い、霊的に途切れずに流れることを目指す。

- ・まず、ほめたたえる曲から始める。日曜礼拝で用いた曲の中から選ぶこともよい。
- ・また、ふさわしいみことばや祈りによって、まっすぐに神を見上げることを期待する。この中で、神からの注ぎを祈ることもある。
- ・そして、メッセージに合わせた曲で応答し、ビジョンに向かう。
- ・楽器による伴奏は、あると効果的ではあるが、伴奏・間奏を含め十分な打ち合わせと準備が必要。準備の無い伴奏よりも無いほうが良い場合がある。ワーシップの目的と担当者のリードに従って使われることが大切で、あくまでも楽器は脇役。
- ・小さな子どもたちがいる家の教会では、一緒に賛美できるように工夫する。

家の教会での礼拝は、一人一人の神への応答を励ます。日曜礼拝を選ぶことができない未信者をも招くことができ、必要に応える道が開かれている。そして、日曜礼拝ではビジョンを新たに受け取り、教会全体が励ましを受けて一週間を生きることとなる。

※ 聖餐式（パン裂き）については別冊「恵みの礼典」参照

3) WORKS 〈ビジョンタイム〉

使徒2:47「すべての民に好意を持たれ」るため（直訳・すべての人々に恵みを示すため）に、ビジョンに立って祈り、実際に行動する時。

霊と真による礼拝に続く応答として、実際に外に向かう。これまでのステージがこの時のための備えとなる。メンバーの一人一人に示された実行目標を明確にし、行動できるように励ます。

グレースコミュニティのビジョンに基づいて立てられた「家の教会のビジョン」に立って、いつまでに、何をするかを群れとして分かち合い実行計画を立てる。

(1) ビジョンとは、まだ存在していないものを見る能力

神が、一人一人の人生や教会に何をなさそうとしておられるのかを知って、それを思いめぐらすこと。

(2) ビジョンをもつため

- ・ビジョンに心が開かれるためにまず祈る……Ⅱ列王6:15-17

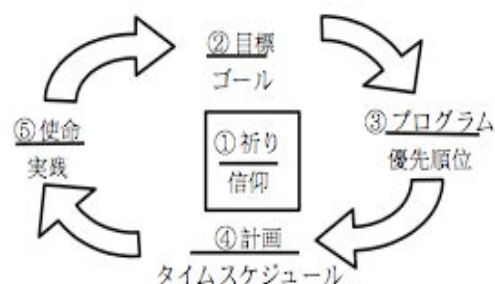
ビジョンのために祈るとは、現時点から御国を仰ぎ見ることができる「視点」を求めて祈ること。みことばの約束を信仰によって受け取り、到達した姿を思いながら、主イエス・キリストの権威によって祈る。

- ・人々の必要に答える機会を捉えていく……マタイ9:36-38

「かわいそうに思い心を痛める」ということ。私たちの身の回りにいる人々の必要は、注意深い目と開かれた耳によって知ることができる。

(3) ビジョンから計画・実践……エペソ3:20-21

- ・祈り—内に働く力を信じて祈ることから
- ・ゴール—どのようになりたいか（増殖に向けて）
- ・プログラム—ゴールのためにすべきことのリスト
- ・タイムスケジュール—優先順位を明確に



	7月	8月	9月	10月	11月	12月
○○○○○○○○	何を					
◆◆◆◆◆			どのように	×	×	×
▲☆★■◇					どうする	×

- ・使命—実践のために必要な人材・機材・資金などを实际的に

＊その他準備—「3・16」の訓練、「1分の証」の準備、プレイヤー・ウォークの実施

オイコス表（人間関係表）を用いて家族友人の救いを祈るなど

担当している宣教師や超教派の団体のために祈る（宣教師へは、イースター・クリスマスカードを書く）

4) WORD （分かち合い）

使徒2:42「使徒たちの教えを堅く守る」生活が助けられるため分かち合う時。

神が、私たちを成長させ変えてくださる。私たちは、みことばを通して語られる神に従い、価値観を変えていく。メンバー全員が担い手なので、互いに建て上げ合い、仕え合うように、神によって成長させられる。だから、安心して正直にありのままの自分を分かち合い、受け入れ合うことが大切なので、コメントしたり教えたりしない。

- ・礼拝メッセージを分かち合い、それを日常生活に適用することを話題にする。
- ・そのために、メンバーは「愛をもって真理を語る」（エペソ4:15）ことを身に付け、「互いに親切にし…互いに赦し合う」（エペソ4:32）ことを学び続ける。
- ・みことばから教えられ、実行したことから導かれた経験を分かち合う。
- ・分かち合いは、必要に応じて互いの祈りへと導かれる。一人一人は、励まされて置かれた所に遣わされて行く。

(1) 礼拝メッセージのアウトラインと質問

分かち合いのリーダーは、メンバーが発見者になれるように質問する。教えるのではなく、助け促す。教えるとリーダーが全部話してしまい、メンバーは自由に語り合えなくなる。リーダーは参加者の1人でありながら、メンバーが聖書の真理を理解し適用できるよう助ける質問をする。しかし、聖書研究ではないので、時には、短い証や簡単な勧めで促すとよい。

(2) 質問のタイプ

- ① 発見するための質問：聖書は何と言っているかを見つける。

例 この聖句から、あなたは何を発見したか。学んだか。見いだしたか。

② 理解するための質問：意味を理解し前後関係を把握する。

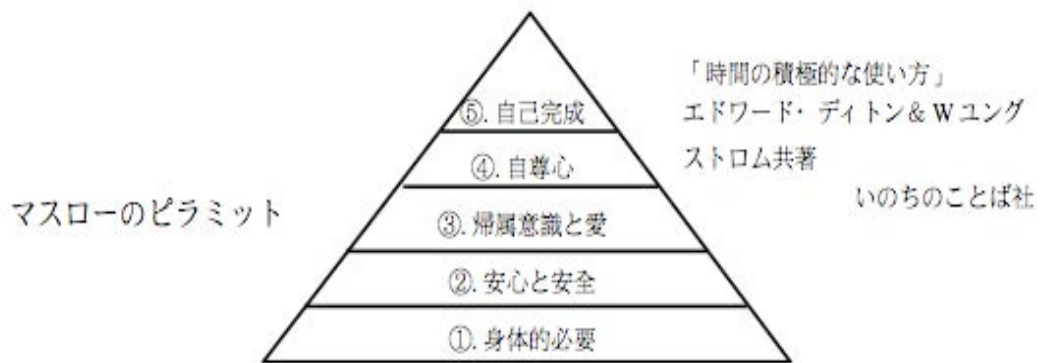
聖書的な回答を引き出す工夫が鍵となる。

例 どんな例があるか。なぜこのように言っているのか。

③ 適用のための質問：自分の生活、考え、行いにどのように適用できるか。

(3) 良い質問は人間理解から

良い反応を引き出そうと願うなら、その人の必要に届くこと。人は自分の本当の必要と、同時に「必要だと感じているもの」の両方をもっている。いずれにしても良い質問は、その人の心に届き、肯定的な反応を導くことができる。



- ① 人間存在は身体的な必要である。単に存在するだけでも食物と水を必要とする。喉が渴いて死にそうであるとき、人の願望はただ一つの目標だけに縛られる。すなわち、水を得ることである。
- ② その上を行くと、人は安心と安全を要求する。真夜中、人影のない場合の街路を歩いている時、家に安全無事に着くことを望む。
- ③ これらの必要が満たされると、更に一段あがって、人の思いは愛したり愛されたり、又グループの一員であるという感じをもちたくなっていく。そこで目標は友情を深めるとか、子どもを可愛がるとかということになる。
- ④ 更に、一段あがると、自尊心すなわち自分を大切にし、自分が自分であり、ありのままの自分であることに良い感じをもつことが自尊心の意味である。
- ⑤ マスローのピラミッドの最上段に示されているのが、自己完成と呼ばれる必要である。マスローによると、自己完成とは自我から解放された自由を意味する。自己完成に達したものは、自分自身を他の人のために与えることに自己の感性を見いだすというのである。

(4) 良い分かち合いのための鍵

① みことばに服従する

共通の価値観、思想、行動、態度の基礎はみことばにある。絶対の権威であるみことばに従い、生活に適用することによって、神が求めておられる姿に近づくことができる。家の教会は、聖書研究をする集まりではなく、みことばに生きるための集まりを大切にする。

—ヨハネ 8：31, 32—

② 互いを赦して受け入れる —キリストが私たちが愛されたように愛する—

互いを無条件に受け入れる集まり。罪を大目に見ることなく、罪を犯した人を拒絶したり裁いたりするのではなく、痛みながら受け入れる。--エペソ 4 : 3 2--

③ 互いに仕え合う態度をもつ

ただ聞き手の立場でいるだけではなく、霊的な当事者となり祈り深く重荷を負い合うべきである。
--ガラテヤ 6 : 2--

④ 完全に秘密を守る

互いに仕え合う家の教会は、メンバーに安定感と支持を与える。このためには正直で誠実な分かち合いと、秘密厳守が必要。本人から明かされるまで待つべきである。
--箴言 11 : 1 2--

＊もう一度確認＊

- ・ 聖書研究ではない
- ・ 教えるのではなく励ます
- ・ 皆が分かち合えるよう、一人の人が話しの場を占領しないようにする
- ・ 誰かが話しているときは他の人が話さない
- ・ 他の人が言ったことにコメントしない
- ・ 個人批判が出てきたときは、リーダーが権威をもって介入する
- ・ 「はい」「いいえ」だけで答える質問は避ける
- ・ 沈黙を恐れない
- ・ リーダーは百科事典ではない
- ・ 閉じる時間を守る

家の教会のメンバーが日常的にかかわっている人間関係はたくさんある。他の家の教会のオイコスの顔と名前がわからなくなることも当然起こる。人の目の届く範囲をこえて、事を成してくださる神の栄光を見ていこう。

キリストを頭とする小さな群れに働かれる聖霊に期待し、ワクワクして家族・友人を迎えよう。メンバーの一人一人が担い手であることを忘れず、また、立てられたリーダーが、小さな牧師として神に聞き自由に働けるように祈ろう。

3. キッズハウス：子どもの家の教会

1) キッズハウスのビジョン

“家族の救いと回復”の重要な働きであり、家庭や教会ばかりか国の将来を担うリーダーを育てる重要な領域だ。

2) 基本理念

エペソ 6：1-4

- 1 子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。
- 2 「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、
- 3 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする」という約束です。
- 4 父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。

子供の救いと養育の責任は両親にある。両親に従い真の幸せを知り、主体的な信仰生活を送ることができるように、両親がリーダーとなり、人生を分かち合う。

3) 目指すところ

Ⅱ テモテ 1:5, 3:14-15

- 5 私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。
- 14 けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、
- 15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。

礼拝メッセージで受けた恵みを、自分の子どもとそのオイコスと分かち合う。

キッズハウスは“子どもの家の教会”。子どもたちが自らみことばを読み、祈ることができるようになり、毎日主と共に歩むように励まして行く。

4) 集会とプログラム

基本的に、週一回集り 4W をします。曜日や時間は子どもの都合に合わせ自由に決めるが、できるだけ定期的である方がよい。

年齢に応じておやつタイムなど楽しく遊び、信頼関係を築いて、互いのために祈り合えることをめざしたい。

ウェルカム……………長くならないように工夫は必要だが楽しい事も大事。
ワーシップ……………礼拝になるように。
ビジョンタイム……………行事だけでなく、信じてほしい家族や友達、キッズハウスに来てほしい子どものために祈る。
分かち合い……………子どもに分かりやすい言葉で短く、日曜礼拝のメッセージを分かち合う。親が正直に子どもに自分の信仰生活（イエス様との体験）を分かち合う事が大事。
祈る……………短くわかりやすい言葉で祈る。時には人を赦し、悔い改めの祈りになることもあるでしょう。

※キッズハウスでの聖餐式については別冊「恵みの礼典」を参照

5) 家の教会との関係

父親が“霊的な覆い”となることが鍵。
キッズハウスは両親が属する家の教会に属する。スーパーバイザーや家の教会のリーダーとのバルナバも必要。

6) リーダーへのフォロー

毎月一度火曜日の午前に2時間、リーダーたちが学びと分かち合い、祈り合う機会（K・Hリーダー会と親²倶楽部）が持たれている。
月に一度日曜の午後に30分の小学生以下の子どもを持つ父親たちの学びとイベントのミーティングなどのため（キッズハウス父の会）も持たれる。

7) イベント

イースターやクリスマスに地区単位で、あるいは夏季、冬季の伝道イベントやキャンプなどを相互の協力で行う。
その企画は、K・Hリーダー会と親²倶楽部と父の会で担う。

8) 必要経費

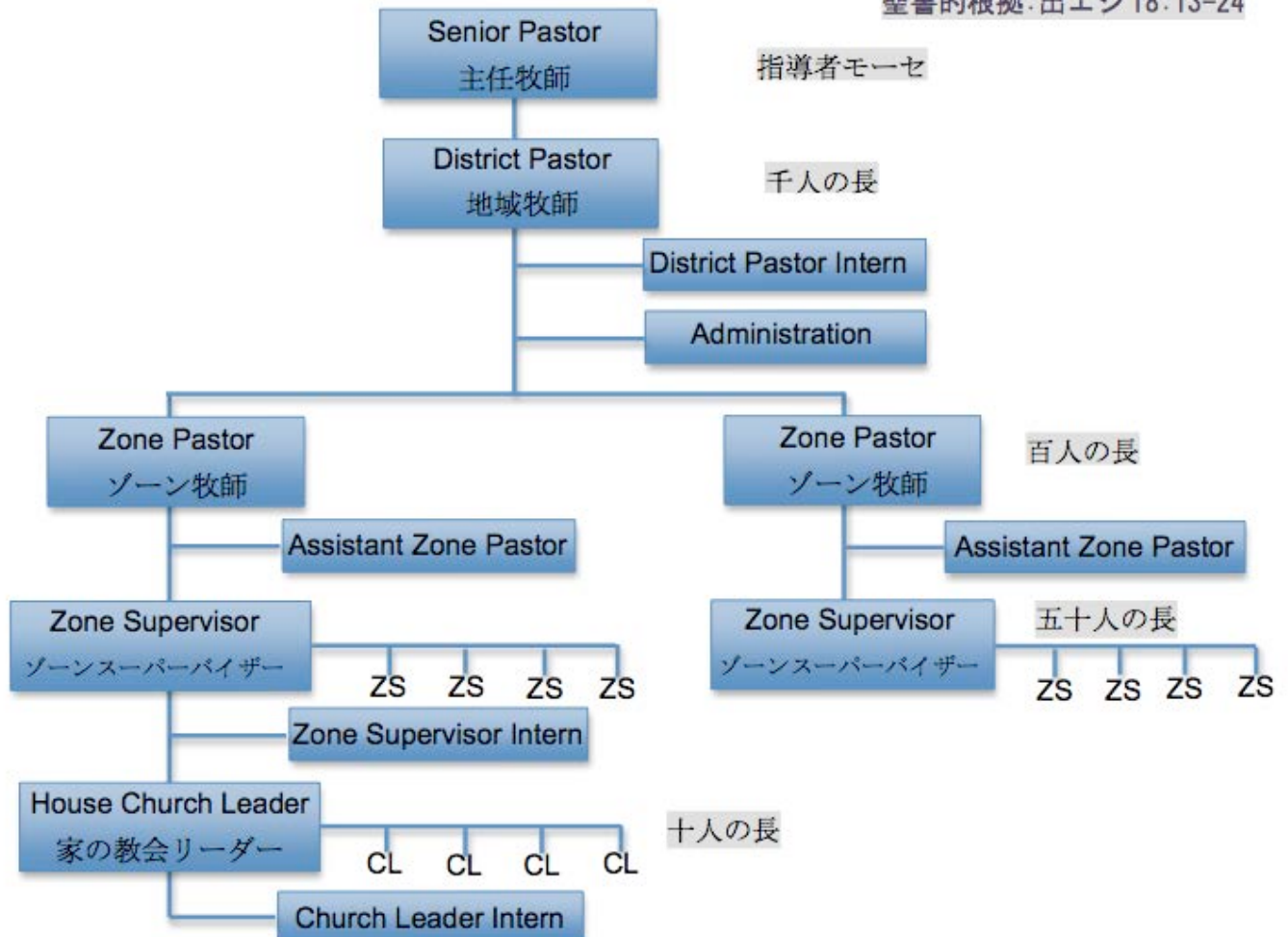
「家の教会」の活動と同様、それぞれが必要経費を支出するが、スーパーバイザーの承諾により、教会会計に援助を申し出ることができる。

V. 家の教会の牧会

1. 建て上げに仕える人

リーダーシップの構造と分担

聖書の根拠: 出エジ 18:13-24



リーダーシップの時間的配分

	家の教会リーダー	ゾンスーパーバイザー	ゾーン牧師	地域牧師	主任牧師
指導者	15	25	30	40	60
管理者	25	35	40	35	25
牧会者	60	45	30	25	15
	100	100	100	100	100

リーダーシップとその役割

1) 家の教会リーダーの役割 <ex18:21 十人の長>

1. 指導者として 15%
 - a. 家の教会の増殖目標の立案
 - b. 代表、インターンの育成
2. 管理者として 25%
 - a. スーパーバイザーに群れの報告
 - b. 群れの監督と集会の準備
3. 牧会者として 60%
 - a. メンバーの育成とバルナバ
 - b. オイコス伝道と祈りの導き



2) ゾーンスーパーバイザーの役割 <ex18:21 五十人の長>

1. 指導者として 25%
 - a. ビジョンの共有と増殖目標の推進
 - b. ゾーン牧師の代理、ゾーンの代表
2. 管理者として 35%
 - a. 家の教会の編成、メンバーの必要
 - b. リーダーの育成の将来計画
3. 牧会者として 45%
 - a. リーダーのバルナバ
 - b. バプテスマとその後の指導

3) ゾーン牧師の役割 <ex18:21 百人の長>

1. 指導者として 30%
 - a. ゾーンの特異性をビジョンから視る
 - b. スーパーバイザーの励まし
2. 管理者として 40%
 - a. ゾーンの働きと組織的運営
 - b. 地域牧師のもとゾーンの代表
3. 牧会者として 30%
 - a. スーパーバイザーのバルナバ
 - b. ゾーンの必要と人材発掘

4) 地域牧師の役割 <ex18:21 千人の長>

1. 指導者として 40%
 - a. ゾーンのリーダーシップの指導
 - b. ビジョンの推進の中核

2. 管理者として 35%
 - a. 地域全域を統括
 - b. 組織と人材の管理
3. 牧会者として 25%
 - a. ゾーン牧師のバルナバ
 - b. 主任牧師と共に牧会

5) 主任牧師の役割 < ex18:21 指導者モーセ >

1. 指導者として 60%
 - a. ビジョン、理念、計画の立案
 - b. 群れ全体の牧場主となる
2. 管理者として 25%
 - a. 法人と役員会の代表
 - b. リーダーシップの監督
3. 牧会者として 15%
 - a. みことばと祈りで群れを養う
 - b. 礼拝と礼典の執行の責任者

6) ミニストリーリーダーとマネージメントリーダー

聖書のリーダーシップには二つの分野がある。ミニストリーリーダーは教会の建て上げと宣教に仕える。一方、マネージメントリーダーは教会の管理と運営に仕える。役員会がその担い手。宗教法人としての事項も役員会が担う。詳細については、教会規約を参照のこと。

2. リーダーシップの形成

1) 神が成してくださること

Ⅱ コリント 1:20-22

【御父の召命】 20v: 神の約束はことごとく、この方において、
「しかり。」となりました。

【御子の堅持】 21v: キリストのうちに堅く保ち、
油注がれた方は神です。

【御霊の保証】 22v: 確認の印を押し、
保証(手付け金)として御霊を…与えてくださいました。

リーダーシップの形成のために、どのようにしたらよいか?ではなく、神が自分の内に成してくださったことに注目をしよう。私たちがクリスチャンになる以前のことも、なっってから後のことをも思い起こし、充分時間をかけて、次のことを思い巡らそう。

- ①与えられた物・事は？
- ②与えられなかった物・事は？
- ③それによって人生が変わった出来事は？
- ④それが今の働きにどのように影響しているか？
- ⑤どんな種類の働きについて考えるとき心が動くか？

2) 5つの観察

(1) 働きは存在から生まれてくる

Being→Doing

テモテへの手紙第一 4:16

この順序が大切です。まず、「自分自身」の在り方から始まる。そして続くものとして「教えること」つまり働きがある。

- ・性格：
- ・賜物：
- ・技能：
- ・価値観：

(2) リーダーの定義：影響

テモテへの手紙第一 4:11-12

リーダーとは
神に与えられた能力と責任によって
神の特別な目的に向かって歩んでいる人々やグループに
影響を与える人

(3) 一生涯を通して形成される

テモテへの手紙第一 4:15

「務めに心を砕き、しっかりやる」。それが進歩の秘訣。生涯をかけて進歩し続ける者でありたい。そのプロセス・過程にこそ模範がある。そして、「何を残して行くか？」チャレンジし続けたい。

(4) 神は特定の意志をもって事を行っておられる

エペソ人への手紙 2:8-10

製品ではなく、「作品」と言われている。作品は手作りだ。リーダーは神の手作り。リーダーシップの形成における主の主権を忘れないことが重要なのだ。

(5) 私の応答によって成長は決まる

テモテへの手紙第一 4:14

「聖霊の賜物を軽んじてはいけません。」とある。応答するとは、“心の態度”であると同時に、どのように応答するか?“具体的な行動”でもある。そのために、自分に与えられている賜物を知り、次に、それに応じて応答の仕方を決定したい。

3)どのようにして影響力が発揮されるか

(1) イエス・キリストの権威

イエス様の平易なことばと教えの中にハッキリと感じられたのは「権威」だった。

マタイの福音書 7:28-29

イエス様の教えは、24v:みことばを聞こうとする者の内に、従うことの祝福を思わせ、賢い生き方を選びたいという動機となったからだ。 ヨハネの福音書 10:18

主の権威は、偉大な選択の自由として発揮された。「いのちを捨てる権威」であり、「いのちを得る権威」であった。それは「この命令を父から受けた」服従の権威なのだ。つまり、主の影響力は十字架の御業に裏うちされた力であり、その結果、私たちにも何か可能性が見えてくる力なのだ。

(2) 模範となる

ヨハネの福音書 13:13-15

主イエスは、それほどの権威をご自分のために使うことをされなかった。かえって、残るところのない愛から、最も身分の低い奴隷のする卑しい仕事をもって、弟子たちに仕えられた。(4-5v) 模範を示すということは、自分の手を汚すことでもある。

ペテロの手紙第一 2:21

だから、真の模範には人々の心を動かし、従わせる力がある。

(3) 影響力は建て上げのため

コリント人への手紙第二 10:8, 13:10

もしリーダーに権威があるとするならば、事実与えられているのだが、それは「築き上げる(オイコドメーン)ため」である。

(4) 影響力が更に発揮されるために

テサロニケ人への手紙第一 2:6-8

肩書きや役割が必然的に影響力を持つのではない。愛し続けることによって形成されるものなのだ。

ペテロの手紙第一 5:2-3

リーダーシップに対してはフォロワーシップという言葉が使われるが、従者（フォロワー）との良い関係の形成は、へりくだりと仕える姿勢による。

- ・強制されて?.....進んで!
- ・利得を求める??.....心を込めて!!
- ・群れを支配する???.....模範となる!!!

マタイの福音書 16:24

ついて来てほしいと思うなら、まず自分がイエス様に従うことだ。人に対して影響力を持つ、その最終的な秘訣はここにある。言い替えれば、すべてのことをイエス様のためにすることだ。例えば、今の肩書きや役割が取り去られても、役割の変化と理解して、喜んで退くことが出来る潔さがあることでもある。

4) リーダーを尊敬し仕えよう!!

(1) 模範としよう!

ヘブル人への手紙 13:7「生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。」リーダーは聖霊の働きを誰よりも信じ、仕えている。生活を通して結んでいる実を見て、倣おう。

(2) リーダーのため祈ろう！

ヘブル人への手紙 13:17 「あなたがたのたましいの見張りをしているのです。」祈りなくして成し得ない働きのために、リーダーは祈っている。立てられたお方の故に、リーダーのためにも祈ろう。

(3) リーダーと交わろう！

ヘブル人への手紙 13:24 「すべての聖徒たちによろしく言ってください」。よろしくとは、11:13 「約束のものを…はるかに見て喜び迎える」こと。
信仰によって、開放的に交わることができる人柄だ。リーダーは群れの間人間関係において開放的な人。オイコスを喜び迎えるために、リーダーの働きと存在に感謝をしよう。

5) リーダーが経験する6つの誘惑

(1) 金銭の誘惑

テモテへの手紙第一 6:6-10 金銭を愛する事が、あらゆる悪の根！

ヤコブの手紙 5:1-6 あなたがたの上に迫っている悲惨さを！

(2) 権力の行使

ルカの福音書 22:24 この中で誰が一番偉い？

テサロニケ人への手紙第一 2:6 人からの栄誉を受けようとしません！

(3) プライド

マタイの福音書 23:12 自分を高くする者は！

コリント人への手紙第一 3:10-15 土台にほかの物を据える？

(4) 異性との関係

マタイの福音書 5:27-28 情欲を抱いて、見る？

テモテへの手紙第一 5:2 真に混じり気のない心で！

(5) 家族との関係

テモテへの手紙第一 3:4-5 家庭をよく治める！

テモテへの手紙第一 3:12-13 直・よく仕える人は良い地位を得る！

(6) 怠惰・負け癖

テモテへの手紙第一 4:15-16 あなたの進歩は明らかに！

テモテへの手紙第二 2:15 恥じる事のない働き人として務め励みなさい

誘惑を感じたりすることは罪ではない。このとき思い起こすべきことは、まず、私たちがそれに値する者とされたということだ。重要な責任や立場にあるときにこそ、誘惑にさらされ易いからだ。次に「自分の欲」を謙遜に認め、誘惑を感じる毎に主に祈り、そして群れで祈ってもらおう。つまり、「だまされないように」すること。私たちの自己像(セルフ・イメージ)を高く持ち、「真理のことばによって生まれた者」であり、「選ばれた仕え人」であることを信じることだ。

3. 関係の中で成長する

—keyword「互いに」—

1. 家の教会の人間関係

家の教会のメンバー全員が、その人間関係の中で仕え合う。

「時として助けられ、また時として助け手になる」のだ。聖書では家の教会の人間関係を「互いに」ということばで教えている。

◆主イエスが私たちに与えた命令は

- | | |
|----------------|-------------|
| ヨハネ 13 : 34-35 | ・「新しい戒め」 |
| 〃 15 : 12 | ・互いに愛し合いなさい |
| 〃 15 : 17 | ・私が愛したように |

◆主の弟子たちはそれを継承した（共同書簡中 17 回）

ヨハネ：互いに愛し合いなさい（I ヨハネ 3 : 23 含め 7 回）

ペテロ：熱心に愛し合いなさい（I ペテロ 4 : 8 含め 6 回）

◆パウロも教えている（書簡中 32 回）

1. 互いに……しなさい（21 回）

- ・愛し合うように ローマ 12 : 10
- ・仕え合うように ガラテ 5 : 13
- ・一つ心に、同じ思いに ローマ 15 : 5
- ・教え、戒め合うように コロサ 3 : 16

2. 互いに……してはいけません（4 回）

- ・さばき合う ローマ 14 : 13
- ・訴え合う I コリ 6 : 7
- ・虚栄に走る ガラテ 5 : 26
- ・偽りを言う コロサ 3 : 9

家の教会の人間関係は、他に見ることのできない尊い関係だ。互いの関係は「徳を立て合い」、霊的成長を目的としている。

I テサ 5 : 11 互いに徳を高め合いなさい

→（単なる人格の問題ではなく、具体的な実として）I テサ 1 : 3, 7

ローマ 4 : 19 お互いの霊的成長に役立つことを求めよう

「平和にすること、建てること」

エペソ 6 : 18 すべての聖徒のために…祈りなさい

「どんなときにも、忍耐の限りを尽くし」

家の教会での祈り合いは「互い」のためであることはもちろんだが、「すべての聖徒のための」主の前でのとりなしだ。

2. 助ける人（メンター）／助けを受ける人

私たちは誰も、他の人々の助けなくして成長することはできない。

家の教会のメンバー同志の1対1の関係が必要だ。

リーダーは、群れの状態に目を配り、一人ですべてをこなそうとするのではなく、聖書の原則に従って、関係の中に主が働かれるよう群れを促す。

ローマ15：1-6

1節：力のある者は……になうべきです

→信仰的にも一般的にもケアのできる人がいる

→ケアを受ける必要のある人がいる

2節：私たちはひとりひとり

・隣人を喜ばせ

・徳を高め

・その人の益となるように

→救われた者のすべてに、その必要と互いに対する責任がある

4節：聖書の与える忍耐と励ましによって

・（5節）：互いに同じ思いを持つように

・（6節）：あなたがたは心を一つに

→互いのこの関係が、成長と一致のために必要であり、充分なのだ

3. メンターとしての関係のスタート

関係のスタートにはいくつかのケースがある。

①オイコスが家の教会に出席を始めたとき、または信仰の決心をしたとき

②家の教会のメンバー間で成長の必要を認めて

上記の組み合わせは、いずれも、家の教会のリーダーの判断のもとで進める。

③家の教会のリーダー自身のため

バルナバ・タイムがこれに当たり、スーパーバイザーがリーダーのメンターとなる。

4. メンターに求められる姿勢

誰もがメンターとなることができる。

メンターとなる条件は、相手よりも少し先にいることと、次の覚悟を持つことだ。

①相手が信仰を頭で理解するだけでなく、生活に適用することを助ける

②相手の人生全般にわたって担っていく

メンタリングを受ける人も、いつか他の人のメンターとしてその人の人生に関わって行くことができる。メンタリングを受けながら、他の人のメンターをしていることもある。

5. 関係が祝福されるためのヒント

(Benjamin Wong 「メンターとして仕える」から引用)

1) 関係を築く上での5つのガイドライン

メンターとして仕える相手と個人的な絆を築くために、自分が以下の項目について、具体的にどうしているか、確認することは有効。

①主体的に関わり、機会を作っているか

②関係を第一の優先事項としているか

- ③共通の関心事を探しているか
- ④心を開き、正直になっているか-透明になっているか
- ⑤愛と愛情を伝えているか

2) メンターの7つの役割

- ①聞き手になる
関心を持って／受け入れる心で／秘密を守り／言葉だけでなく／その人の全体を聞き取る
- ②とりなし手となる
感謝をもって／神に聞くことを習慣化し／相手の必要を記録し／共に祈る
- ③模範となる
自分の弱さも分かち合い／ペースを考慮し（燃え尽きず、また怠惰にならないために）
- ④導き手となる
トレーナーでなく、アドバイザーとして
- ⑤霊的旅路における助け手となる
相手が自分の霊的旅路を心に描くことを助ける
- ⑥コーチになる
技能を身につけさせる／自信を持たせ、動機づける
- ⑦仲介者となる
自分のコピーを作るのではなく／チームで人を建て上げる

3) 問題に対処する

- ①自分の忙しさ～優先順位の問題として捉え直す
- ②多くのことを行おうとする～相手が自分でできることは決してしない
- ③相手に時間がない～コミュニケーションを取り状況を理解する
- ④繰り返し陥ってしまう問題に悩む～弱さのうちに現れる主とともに人生を通して戦い続けることも
- ⑤意見の衝突と批判に対処する～セルグループにおいて最善の段階。もっとも成長するとき。

4. バルナバ・ミニストリー

－聖書的コーチング－

1. バルナバという人を理解しよう

①すべてを共有にして

使徒4：32－37

- ・彼らの持ち物に対する態度は？ 32節
- ・その結果は？ 34節
- ・バルナバの戸籍を完成しよう 36－37節
 - ・本名：
 - ・出身地：
 - ・家業：
 - ・あざな（ニックネーム）：

バルナバは、共有生活のできる、惜しみなく献げる人。人間関係の良い人だった。彼は慰めを与えることのできる人だった。

②聖霊と信仰に満ちた人

使徒11：19～26

- ・エルサレム教会に伝えられた信じられない出来事とは？ 21節
- ・バルナバはそれを見てどうした？ 23節
- ・彼の開かれた心の秘訣は？ 24節
- ・サウロを連れてきた目的は？ 26節

バルナバは、人の祝福を喜べる人であり、まだリーダーでない人に可能性を見出し、人を教会と結ぶことのできる人だった。

③引き受けて、連れて行き

使徒9：26－28

- a. パウロの過去は？ 9：1－2
- b. バルナバのしたことは？ （動詞三つ） 27節

・
・
・

④一緒に連れて行く

使徒15：36－41

- a. マルコ（ヨハネ）の過去は？ 13：13
- b. パウロの考えは？ 38節
- c. バルナバは？ 37節
- d. 結果は 39節

バルナバは、まだリーダーでない人の傍らに立ち、リーダーとなるよう助けることをした。

2. バルナバ・ミニストリーの実際

家の教会におけるリーダー養成の本質的ツール。頭角を現している人を見出し、その傍らに立ってコーチングする重要な手法とも言える。「どのような働き（Doing）も、すべては在り方（Being）から生まれてくる。」

そのために、全人的（holistic）に検証がされ、クリスチャン生活のバランスが保たれなければならない。

必ずしも1：1とは限らず、スーパーバイザーと関係する複数のリーダーとで行う場合や、働きが共通する場合には夫婦単位で行うこともある。

思い巡らす

①自分に対する神の計画の全体を知ること

神が、自分の成長に求めておられることを知り、それに向かって自分を差し出すこと

②最良のバルナバの務めは、それを発見させることに力を注いで助けを与えること

③最善の結果は、相手が聖霊に聞き、理解することができるようになること

焦点を合わせる

①どこへ向かって行こうとしているか

②思い巡らしの中から、神の全体的計画のどこに焦点を合わせるかを助けること

③最善の結果は、相手が自分の到達すべき目標を発見し、その目標達成のために、どのようにしたら良いかを知ること

ミニストリーで意識すること

- ・ 良い質問：傍らに立って聞く
- ・ 共感：相手が関心を持っていることに関心を示す
- ・ 雰囲気：予想される妨げを知る
- ・ 質問の選択：自分の聞きたいことと、聞かなければならないこと
- ・ 視点：神が見ておられるように見ることができるようになるように助ける
- ・ 備え：準備と計画のために時間が必要
- ・ 柔軟性：さまざまな個性を持つ相手に見合った取扱い
- ・ 弟子化：単に聞くだけでなく、必要な訓練を与える
- ・ 効果：継続的に行われること

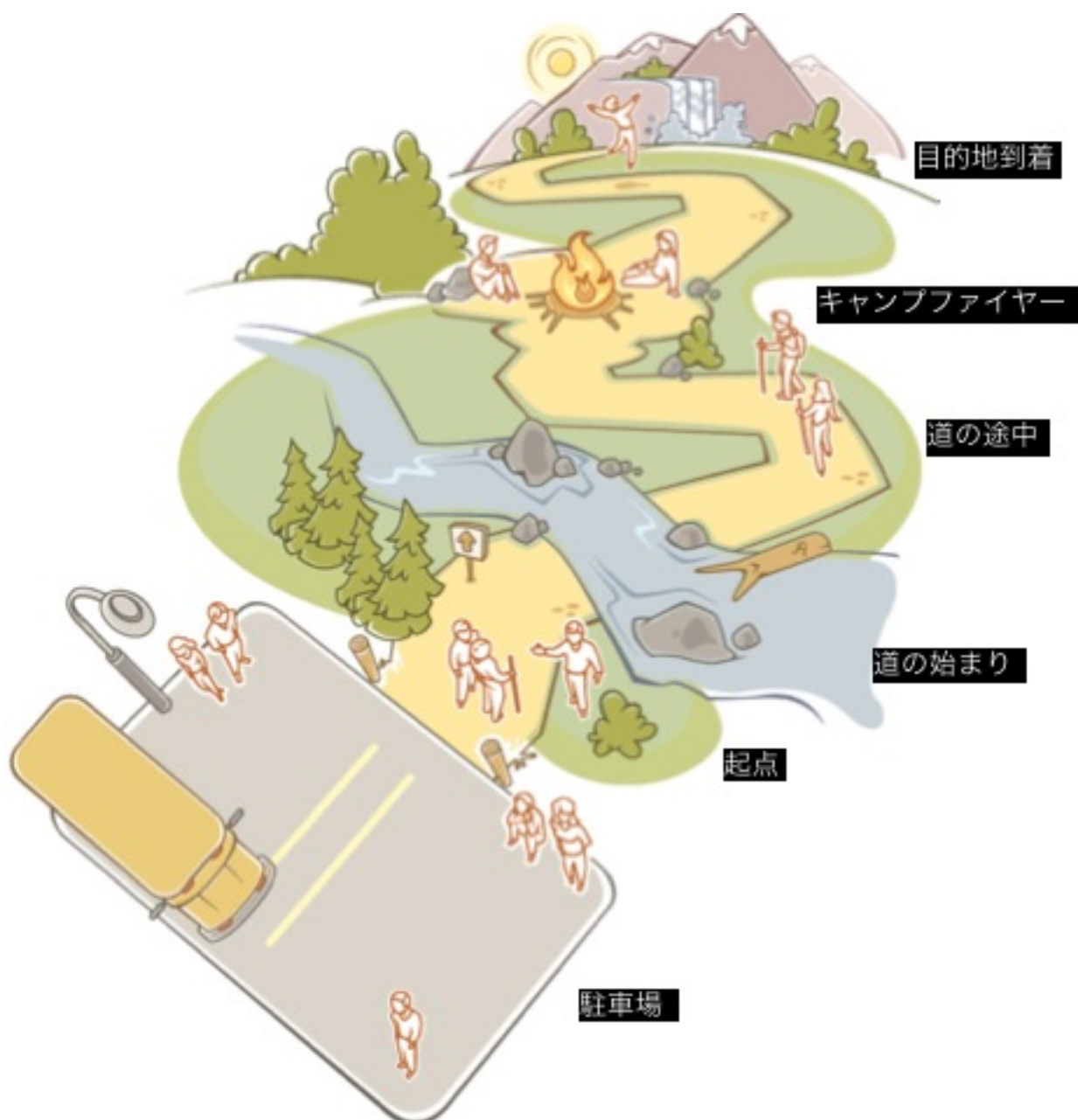
3. 効果的な質問を用いる

目指す目的地に到達するためには、必要な道のりを通らなければならない。それはちょうど、駐車場に車を停めて、山に向かって登る過程のようだ。

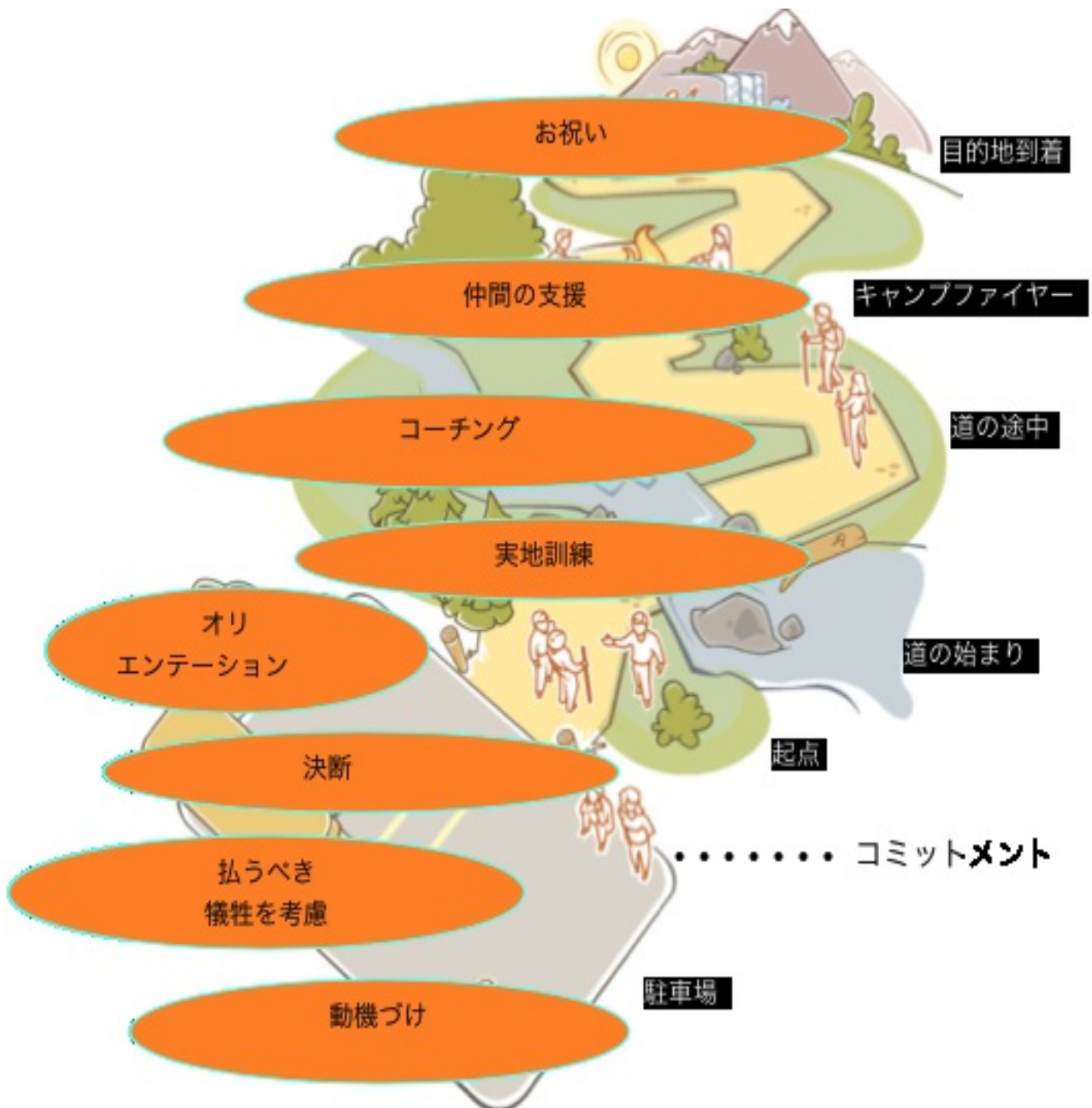
メンターは、相手の成長の過程において、次の「5つの質問」を用いて気付きを促す。

※以下の5つの質問と図は、ボブ・ローガン師が2009年11月にJCGI（日本教会成長研修所）30周年セミナーで行われた「リーダーシップ・チェンジ」からの抜粋

1. うまくいっていることは何ですか？
2. うまくいっていないことは何ですか？
3. 以上のことから、学んでいる事はなんですか？
4. 何が変わらなければなりませんか？
5. あなたの次のステップは何ですか？



これは目的地に向かう各ステップをメンターとしての視点で見たもの。
駐車場から進み出ることを励まし、時には決断を待ち、一緒に旅の行程を辿る。
実地訓練では「I do You watch」も用いられる。
その人は、経験の中で学び、メンターはその人の成長を共に喜び合う。



VI 「家の教会」における伝道

-オイコス伝道-

オイコス伝道の4つのステップ

1. 未信者を心にとめて、祈り続ける。

失われた魂に対する神様の心を受け取り、祈り続ける。

-I テモテ 2:4-

神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。

- ・個人、群れで祈り続ける
- ・家の教会のビジョンタイムで祈る
- ・リバイバル祈り会で祈る
- ・オイコス表を作成して祈る（巻末様式参照）
- ・プレイヤーウォークをする（巻末様式参照）など

●祈りの中で、関係を深めるように示された人に対してアプローチする時を見極める！

2. 関係づくり

祈っている人々をイエス様のもとへ導くため、自分と、また、家の教会のメンバーと出会うチャンスを作る。

-第I コリント 9：22-

弱い人々には、弱い者となりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。

1. インタレストとは

共通の興味あることや趣味などを通じて、まだキリストに心が開かれていない人々と人間関係・信頼関係を深めるために時間を過ごすこと。

- 1) まずは祈っている人と親しい関係を築く
(食事をする、一緒に出かける、電話やメールをするなど)
- 2) その人を家の教会のメンバーに紹介する

<私たちがチャンスとして用いているインタレスト>

スポーツ	野球、サッカー、バスケット、バレーボール、テニス、マラソン、バレエとエアロビなど
野外活動	登山、釣り、キャンプ、花見、ドライブなど
食 事	鍋、バーベキュー、流しソーメン、餃子パーティー、お菓子持ち寄りパーティーなど

教 室	陶芸教室、カレー作りなど
音 楽	賛美歌歌う会や四季に唄おう（コーラス）→ミニコンサートもする、ハッピースパローズ、マッドフェスなど
その他	クリスマスパーティー 共同老人ホームでのクリスマス会 物作り（ビーズやパッチワークなど） 敬老会（お茶や日本舞踊） 「私を見つけて」のリストで分かち合う会 ぞうさんネット グレース工房で特別支援学級の親子を対象にカキ氷パーティー →その後に「君は愛されるために生まれた」をテーマにした集会

3) 教会全体のイベント

- ・アルファ・コース
- ・マリッジ・コース
- ・ペアレンティング・コース
- ・離婚・別居リカバリー・コース
- ・デーティング・コース
- ・クリスマス・コンサート
- ・ザ・まつり
- ・英会話クラス
- ・Meets-A
- ・IFJ キャンプ
- ・GC スポーツ
- ・ハッピースパローズ
- ・キッズハウス・キャンプ
- ・アイスクリームパーティー
- ・動物園へ行こう
- ・子育てサロン

4) その他

- ・心の相談室
- ・NPO グレース工房
- ・LOVE SAPPORO PROJECT

●あらゆる機会を捕えて証が出来るよう「1分の証」を準備する！（巻末様式参照）

3. 収 穫

オイコスをイエス・キリストの救いの確信へと導く。

-ローマ 10:9,10-

なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

-ローマ 10:14-

しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。

1. 収穫に向けて

心を開いている人を、次の段階へ導く

・ 聖書の学び ・ 家の教会 ・ 祈りのミニストリー ・ 日曜礼拝 など

<聖書の学びのテキスト>

●求道者用テキスト

0. 聖書の学び

●洗礼クラス 1（信仰生活編）

1-1. 信じて歩む（小学生向け）

1-2. 信じて歩む（中高生向け）

1-3. 信じて歩む

●洗礼クラス 2（教会生活編）

2-1. 神の家族として（小学生向け）

2-2. 神の家族として（中高生向け）

2-3. 神の家族として

●家の教会の理論と実際

3. 家の教会マニュアル

●礼典執行における手引き

4. <別冊>恵みの礼典（リーダー、スーパーバイザー用）

2. 福音を伝え、決断の時を設ける

1) 信仰告白に用いられる機会

- ・ 個人の証をした後で
- ・ 礼拝で
- ・ 家の教会の集会で
- ・ 聖餐式で
- ・ 聖書の学びの中で
- ・ 祈りのミニストリーで
- ・ アルファ・コースやマリッジ・コースで

- ・ IFJ キャンプで
- ・ 心の相談室で など

2) 三つの反応に対する対応

(1) はい、信じます。

- ・ 質問をして確かめる。「自分が罪人であることが解りますか。」
「では、イエス様があなたの罪のために十字架にかかって下さったと信じますか。」
- ・ 心の中で聖霊の働きを祈りながら、イエス様を受け入れる祈りを導く。助けが必要だと感じたら「私の後について祈りましょう」と促す。

(2) 信じる事が出来ません。

- ・ プレッシャーを与えないように「神様の招きを感じられませんか。
今の説明で、何か解らないことがありますか」と、話し合うようにする。
- ・ 祈り続けることを約束して、「イエス様を分かち合う時間をとっていただき感謝します」と告げる。

(3) まだ、準備が出来ていない時

- ・ その発言の真意を確認し「自由にキリストを受け入れることに、何か妨げとなっていることがありますか」と尋ね、その問題を聞いて、分かち合う。
- ・ ヘブル 11:6 を開き、声に出して読んでもらい、「あなたは真の神を求めておられます。そして主もまた、あなたを導いて下さいます」と言い、一緒に祈って終わる。
あくまでも良い関係を継続する。

●3. 16 (図を書いてイエスキリストを救い主として紹介する個人伝道の道具) を用いて導く方法もある (巻末様式参照)

3. 信仰告白の後

1) 救われた恵みを他の人に証する事を励ます

2) バプテスマに導く

聖書の学びや家の教会の交わりの中でなど。

3) 試問会に臨む

試問会資料に沿って、準備をしていく。

4) バプテスマを授ける

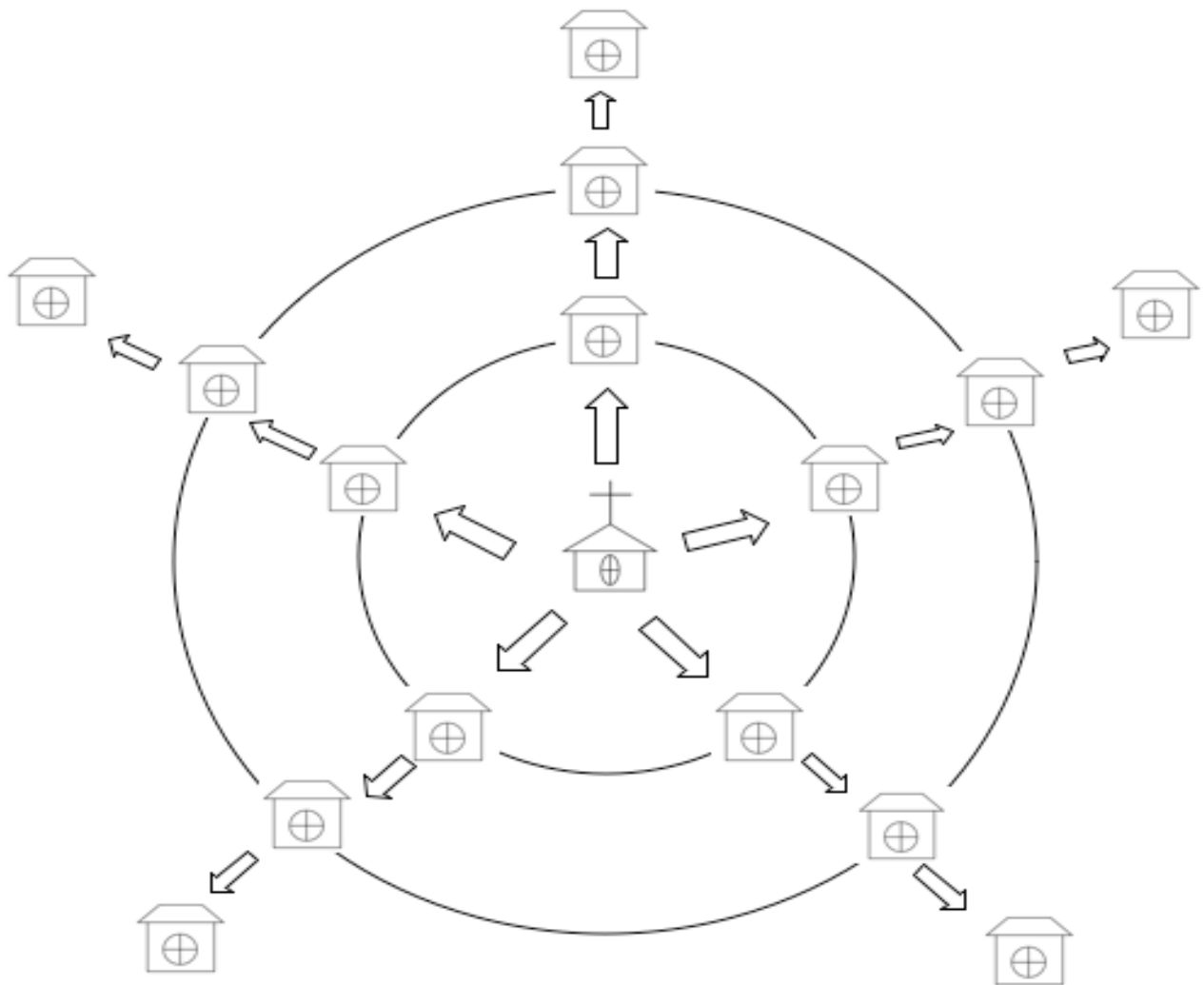
バプテスマには自分の家族や友人を誘うように導く。また、当日はバプテスマ・マニュアルに沿って、家の教会ごとに準備する。

4・家の教会の増殖

人々が救われ、家の教会が増殖していく。

-使徒 9:31-

こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえていった。



<今までの増殖の例>

- ・家の教会が出来るように祈ってきた地域から人々が救われ、増殖
- ・救われた人が起こされ、メンバーが増えたため増殖
- ・一人の救われた人の必要のために増殖 など

5. プレイヤー・ウォーク (祈りの歩行)

1. プレイヤー・ウォークとは

目的： 教会が、近隣のターゲットとなる地域に浸透して地域社会に出て行くための、単純な祈りの戦略と方法。

目標： ①祝福する。

②近隣地域とそこに住んでいる失われた人のために、深い、憐れみの心と意識を高める。

定義： 「洞察力をもってその場で祈ること」…ステーブ・ホーソン

洞察： ①敏感な洞察力

プレイヤー・ウォークによって観察力が訓練され、体と心を祈りに集中させる。

人々に対して私達の心を開く。地域社会の文化と鼓動に関する理解が与えられる。

②調査に基づく洞察

その地の歴史を知ることによって重要な地点へと導かれ、私達の祈りの助けとなる。

③神に示された洞察

みことばを通して。聖霊によって。

2. 聖書的根拠

1) あなたの目を用いなさい—地域の中での神のビジョンを見る。

「さあ目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。わたしは、…この地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。」(創世 13:14-15)

2) 明確なターゲットとなる地域と境界線—神は領域を明らかにされる。

「あなたがたの領土は、この荒野とあのレバノンから、大河ユーフラテス、ヘテ人の全土および日の入るほうの大海に至るまでである。」(ヨシュア 1:4)

3) 神は与える方である—神の相続を受け取りなさい。

「あなたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたに与えている。」(ヨシュア 1:3)

4) あなたは神の祝福の管である—あなたの契約の箱を安置しなさい。

「しかし、神に感謝します。神はいつでも、私達を導いてキリストによる勝利の行列に加え、いたる所で私達を通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。」(Ⅱコリ 2:14)

3. 七つの基本技術

1) 会話の祈り

祈りの課題を発展させ、焦点を絞る。大切な事柄を何度も繰り返して祈る。大声ではないが声に出して祈る。並行して歩く。聖霊の導きに従う。

2) みことばをもって祈る

聖書を声に出して。その中にある真理を自分の言葉で言い表わす。

3) 敏感な洞察力

目をあける。周りのものに敏感になる。感覚を集中させる。近隣地域の文化と鼓動を理解する。

4) 神の霊で祈る

5) 同一化した悔い改め

罪人と同一化する―「彼等が」ではなく、「私たちが」と言う。憐れみを求めて叫ぶ
―ルカ 18:13「神様、こんな罪人の私をあわれんでください」。人々を代表して悔い改め
をしていく―ネヘミヤ 1 章。

6) 祝福を祈る

祝福を祈ることは最も力強い励ましである。祝福を祈ることは預言的な祈りを伴う。祝
福を声に出して言う。

7) 関係づくりと祈り

友だち関係を作り、深め、築いていく。その人が肌で感じている必要を見つけ出す。祈
りの課題を聞く。祝福の祈りをしても良いか許可を求める。関係を深めていくための方
法を見つける。神のタイミングを知る。種を蒔く時なのか、刈り取りの時なのか。

4. プレイヤーウォークをする場所

家の教会・職場・学校・メンバーの家などの周囲、家の教会を産み出したい地域など。

5. 出て行く前の祈り、帰ってからの祈り

- 1) 出て行くペアーのそれぞれが、互いの一致と守りのために祈り合う。
- 2) この時、エペソ 6 章の「神の七つの武具」を着るように祈るのも良い。
- 3) 帰って来たメンバーのために、リーダーが権威をもって守りと聖さを、そして彼等の家
族のためにも併せて祈る。

6. 記録をつける

観察や洞察したことや祈りの答えを記録することで、継続的にその地域の必要のために祈
り、神のその地域に対する御計画やみこころを知るため。

7. プレイヤー・ウォークの成果

- 1) 私達の地域への意識が深まる。
- 2) 人々に福音を届ける機会がもたらされる。
- 3) 地域の必要が明らかになり、教会がそれに応えるようになる。

＜付 録＞

アルファ・コース関連

1. アルファ・コースとは

アルファ・コースは教会に行っていない人やクリスチャンになったばかりの人を主に対象としたキリスト教信仰をわかりやすく紹介する15のセッションからなるコースである。現在、5万を超えるアルファ・コースが世界の169カ国で開かれており、コースは、キリスト教の主な教派のすべてで導入され、都市から農村地域にいたるまで、又、刑務所、学校、大学、職場でも開かれている。

A	Anyone interested	興味のある人は誰でも
L	Learning & Laughter	学びと笑い
P	Pasta	食事を共にする
H	Helping one another	互いに助け合う
A	Ask anything	何でも質問できる

2. アルファのDNAとは

1) 失われた魂に対する愛

宣教に対する情熱、求める者たちに友好的な雰囲気

2) 「神の国」という視点、考え方で

自分の教会という枠を越えて、神の国の視点で

3) あわれみ深さ

罪人を裁くのではなく、愛する。さばいていいのは魚と手綱だけ。

4) 関係づくり

信じた後、共同体に属すると考えやすい。しかし、人は属してから友、仲間になってから信じるケースが多い。信じる前に仲間になる。神は関係の中に働いてくださる。ゲストがゲストを誘っていく。

5) しもべの態度

くつろいだ空間を作る。自分は歓迎されていると感じるようなセッティング。おもてなしの姿勢。余分と思えること、またゲストのために小さなことにも気遣う。

6) 聖霊の働き

会話やディスカッションに聖霊の働きを信じ委ねる。圧力をかけたり、説得したり、弁護するのではなく、説明する。しるしと奇跡を期待する。人間的な知恵に頼らない。

7) 教派を超えた一致：アルファの理念

排除ではなく、包括する。他の教団、教派を批判しない。違いではなく、共通点を確認

する。アルファはキリスト教の基本に焦点を当てることによって教会間をつなぐ。あり方、スタイルではなく DNA がありかたを作っていく。

3. アルファの実際

典型的なプログラム （夕方 19:00 からの例）

(18:15 リーダーチームの祈りと準備)

19:00 みんなで夕食
19:30 歓迎の時：ジョーク、アイスブレイカーなどを交えて
19:45 お話、トーク
20:25 休憩 デザートとコーヒー、紅茶を出す
20:35 ディスカッションタイム 小グループで分ち合う
21:15 終了

1. 食事

食事を一緒にすると人は自然に心を開くものである。その時、宗教的にならず相手の土壌で話をしながら関係づくりを心がける。

2. トーク

毎回テーマに沿ってキリスト教信仰に関するトークを聞く。11 週 15 のセッションがある。

- ① イエスとは？
- ② イエスの死とは？
- ③ 確かに信じるには？
- ④ 聖書を読むには？
- ⑤ 神に祈るとは？
- ⑥ 神の導きとは？
- ⑦ ウィークエンド
聖霊とは？ 聖霊の働きとは？ 聖霊に満たされるには？
人生を最高に生きるとは？
- ⑧ 悪に対抗するには？
- ⑨ イエスを伝えるとは？
- ⑩ 神の癒しとは？
- ⑪ 教会とは？

3. スモールグループ

スモールグループの目的

- 1) 分かち合い
- 2) 聖書の学び方を紹介する
- 3) 共に祈ることを学ぶ

- 4) キリストの体（教会）の中で、長く続く友情を育む
- 5) 互いに祈り合うことを学ぶ
- 6) 他の人がクループをリードする訓練をする

リーダーの役割

1) ホスト・ゲストの関係

アルファのスモールグループでの理想はホスト／ゲストの関係である。家に誰かお客さんがやって来たのと同じように受け止めるということである。

スモールグループでの雰囲気というのは押しなべて「控えめ(low key)」であるということである。その人のバックグラウンドやその人の信念などによらず、宗教、生き方に関わらず、その人を敬意を持って受けとめるということである。それは対決的でないということ。「肩に力を入れず」で「ありのまま」であるということである。

何かをしなければならない」のではなく、「霊的であらねばならない」のでもない、「こうあらねばならない」のではない。ただなすべきことは「リラックス」「あなた自身であること」、「オープンであること」であり「正直である」ことである。

もしもリーダーやヘルパーがそうであれば、ゲストもまたリラックスし、正直になり、オープンになり、そこには本当の会話と親しさが生まれる。

2) 実際的な事柄に配慮する。

- ・時間通りに始め、時間通りに終わる
- ・テーブルでのグループ分け、イスの並べ方、お互いが良く見える配置、適切な照明。

3) 2つのよくある失敗を避ける。スモールグループの悪い例。

◆ 弱いリーダーシップ

リーダーの準備が不十分で一人の人に話し続けさせてしまう。話している人も後で後悔したり、グループで一人の人の話を聞かされたりするのはしんどいものがある。

あるいはホストを中心にゲストと1対1だけの話になってしまう。グループの会話となっていない。一方通行のみでゲスト同士の会話の発展にはなっていない。

◆ あまりにも支配的なリーダーシップ

参加者が自由に感じたことを話す機会を与えられずに、すべてリーダーが一人で話してしまう。これではグループのすばらしさが全く消されている。リーダーが緊張しすぎて一人で話してしまうこともあるし、グループを支配するつもりでなくても結果的にそうになってしまう。

○スモールグループでの良い例とは

グループでの話し合いの素晴らしさがでている会話とは。グループのすべての人が参加していることである。ゲスト同士で話し合うようになるとスモールグループの楽しさが一段と増す。グループリーダーは答えを出す人ではなく、方向づけでもなく、スポーツの審判のような役割、全員がゲームに参加するように全員に話すチャンスを与える。人は自分の話を聞いてもらって心を開いて話すようになる。勿論話さない自由も与える。

クリスチャンはクリスチャン用語をあまり使わないよう気をつける。また、すぐ教える癖をやめることも大切である。人は説得されても納得はしないものである。聖霊がその人に語りかけて変えられていく醍醐味を見て行くときである。

ノンクリスチャン(ゲスト・オイコス)のみなさんがリラックス出来、心を開けることが鍵である。

4)簡単な質問をする

実際コースが始まったら、どんな質問をすれば良いか用意される。リードしていく中でリーダーが覚えておいたら助かる2つの質問とは

質問その1「あなたはどう思われますか？」

ほかの皆さんはどう思われますか？」と聞く

質問その2「あなたはどう感じましたか？」

ほかの皆さんはどう思われますか？」と聞く

2つだけの例外

(1)グループの誰かが、「カルケドン会議の日付はいつだったのでしょうか？」と尋ねたときに「このグループの他の皆さんはどう思われますか？」と切り返すのは賢明ではない。さっと答えて次の話題に進む。

(2)「クリスチャンはどんなことを信じているのですか？」と聞かれた場合、他の人はどうですかと振らないで答える。

私たちは神様を知っているということで横柄な態度をすることは避けるべきである。ゲストはキリスト教では初心者かもしれないが、人生においては初心者ではない。全員に対して敬意と関心をもって接することが必要である

5)良く出る質問に対して備える

アルファ・コースの中で良く出る7つの質問とは

- ◆ 神はどうして苦難を許されるのか？試練の意味は？
- ◆ 他の宗教は？
- ◆ 婚前交渉は悪いことか？
- ◆ ニューエイジ・ムーブメントはキリスト教と比べてどうなのか？
- ◆ 同性愛者に対して、クリスチャンはどういう姿勢を持っているか？
- ◆ 科学とキリスト教は相容れられるのか？
- ◆ 三位一体は、非聖書的で、信じがたく、まだ的外れなものか？

4.GC のアルファの取り組み

1)過去

- 2006.2 アメリカのアルファ・コースを見学、研修
- 2006.9 アルファ・コース 1 回目実施
- 2008.6 マリッジ・コース 1 回目実施
- 2010.1 離婚、別居リカバリー・コース 1 回目実施

2)現在

家族の回復のビジョンのもと、アルファ・コースは年 2 ～ 3 回継続して現在も行われている。またマリッジ・コース、リカバリー・コースも年 1 回ずつ継続し行われている。

3)未来

新しくペアレンティング・コースを 2011 年度 10 月末から実施したい。

5.家族の回復の取り組み

1. マリッジ・コース

七つのセッション

- セッション 1 しっかりとした土台を築く
- セッション 2 コミュニケーションの方法
- セッション 3 衝突を解決する
- セッション 4 赦しの力
- セッション 5 家族の影響---過去と現在
- セッション 6 豊かなセックス
- セッション 7 愛を実践する

参加者のアンケートから

「マリッジ・コースでの一番の収穫は何でしたか？」

- ・ お互い本当に違う存在だとわかった。今まではそれが衝突の原因となっていたが、その違いこそが結婚を意味する物とすることが分かった。
- ・ コミュニケーション、正直に分かち合うことの大切さを知った。
- ・ マリッジタイム。二人だけで過ごす時間を意識して持つことで親密さが増した。夫婦の時間こそ、生涯の最優先事項であることを確認した。
- ・ いろいろな問題について、妻と二人できちんと向き合うようになった。
- ・ 夫婦の会話、感情を話し合うことの重要さが身にしみた。今までは業務連絡だけで自分の感情を押しこめ、夫には話せなかった。このコースで本当に自分を分かち合う相手は夫であることを確認した。
- ・ 15 年待ち続けていた、ねぎらいの言葉を遂に聞いたこと。15 年待ち続けていた夫への不信感に気づき、赦せた。
- ・ 健全な結婚生活と、より質的な向上の目標がわかった。
- ・ コミュニケーション、特に聞くことの重要性。夫婦関係が修復できた。

- ・ コミュニケーションの方法を学んだこと。これがわかっていなかったなので、今まで話し合いの時間を持っても、うまく話しあえず、かえって失望してしまいました。今後の生活に生かして行きたいと思います。
- ・ 夫婦でこのように話し合うことは、今まで一度もなかったのでとても良かった。会話といっても表面的なことばかりで、これからお互いにとって大事なことも話し合える夫婦になって行きたい。
- ・ 妻とのコミュニケーションができ、問題に向きあうことができた。今までは何の問題もない理想的なカップルと思っていたが、正直に向きあえ、問題点を浮かびあげさせられた。それが嬉しい。
- ・ まだ癒されていない傷、解決していない問題について、二人で取り組んでいくことを決めた。
- ・ 問題が勃発しても恐れなくて向き合えばいいことが分かった。問題がおこったら終わるかと思っていたが、衝突は健全なことで、お互いが正直に向き合い解決していく中でよりお互いの距離が近くなることが分かった。
- ・ 男と女はいろんな面で違うことが良く分かった。私は自分の心話をしたいのに、もどかしさを感じていた。そのうちはなすことを諦めるようになっていた。自分のことばかりではなく男性の特徴も理解受け入れもう一度挑戦していきたいと思いました。

2. 離婚、別居リカバリー・コース

六つのセッション

- セッション1 起こった事の結果に向き合う
- セッション2 コミュニケーションと衝突の解決
- セッション3 手放して前に進む
- セッション4 法律問題と道德問題
- セッション5 他の人間関係について
- セッション6 もう一度独身として前進する

参加者のアンケートから

① 「リカバリー・コースで一番役に立ったこと、心を打ったことは何ですか？」

- ・ スモールグループでの分かち合いの中で安心してそこにいることができた。
- ・ 離婚した両親の子どもがたくさんいて、とても傷ついて、でも両親のことを思っていることが伝わりすごく涙した。離婚した子ども達の視点で共感する部分が多かった
- ・ 相手の話の聞き方とか会話の仕方、上手なけんかのやり方を学べた。
- ・ 人間関係、前夫との境界線を持つことについて目が開かれた
- ・ もう一度独身として歩めると思った時嬉しかった
- ・ 相手を赦すこと、自分が赦されることの大切さを知った。赦しは選択であり、赦す決心をすること、
- ・ 前進するための実際的なヒントを得た。
- ・ 今までどこでも話す場所がなかったが、スモールグループで、普通に色々と自分の傷や

痛みについてオープンで話すことが出来たこと、

- ・ 子ども達の言い分を直接聞けたこと、
- ・ 自分の傷と漠然としていたことがはっきりさせられたこと、自分の中に後悔の涙として蓄えられていたことを発見した、
- ・ グループは何でも自由に話せる雰囲気では明るかった、その中でいろんな人たちの意見を聞くことができ、自分のことをもう一度考え直すことが出来た
- ・ 離婚や大きな苦しみした後、人が大きく落ちていく過程を学べたこと、そして回復があること、問題がどんなに困難でもすべての人には希望があること、
- ・ 私達は失敗した人間関係を持っているが、でも私達自身が失敗者ではない
- ・ 自分が自分を赦していないと認めたこと、赦しも自分本位なものであったと気づいた・・・聖・書では離婚は神の計画からそむくものといわれているがイエス様が人の弱さを知っていて、人生の危機のとき裁くのではなく傍らに寄り添い愛を示していた方であるということ、教会として離婚や痛みに対して反省を含めてこのコースを立ち上げ、イエス様の心を生きて行きましょう。

② 「リカバリー・コースに参加して、将来に向けてどんな励ましと希望を得ましたか？」

- ・ 1人で進むのではなく、分かち合いをした人々と仲間意識も出て暗いことも明るく笑いながら進めることが出来、閉じ込めておかなくても良かった
- ・ 今までの縛りから解放されたことでさらにステップアップされる希望を持った、離婚は確かにマイナスのことだけど、これから自分にプラスにしていけるかなと思えるようになった、
- ・ どんな状況、どんな立場であっても回復の道がある、
- ・ 前向きに生きる、一つの間人間関係は壊れたとしても、それは人生の失敗でもなく落伍者でもないということは大きな励ましを得た、自分の経験はマイナスではなくプラスになることなのだと知ったこと、前向きに進む勇気をもらった、

③ 「あなたにとって回復とはどんなことですか？」

- ・ 今まで離婚について触れないようにしてきたが、離婚について話せるようになったこと、
- ・ 思い出してもムカッとかないこと、
- ・ びくびくしないで夫に会えること
- ・ もう一度結婚したいなと思えること、
- ・ 自分のことより子どものことを考えていたけど自分のことが考えられるようになったこと
- ・ こだわる時はこだわり、前向きにきちんと向き合うこと、
- ・ もとの状態に戻るのではなく赦すことだったり重荷をおろすこと、それを選択すること。自分に自由になる、自分にやさしくなる、自分の痛みを認識すること、
- ・ 繰り返していた否定的なパターンを破壊しイエス様に頼ること、
- ・ 不可能なこと、喪失を十分悲しんで前に前進すること、
- ・ 新しい恋をする、取り戻す、感情を正直に認める、生き返ること、人の役に立つ、癒さ

れること、生かされること、積極的になること、怒りがなくなる、成長すること、目標を持つ、穴が埋まる、笑顔、喜び、起きている良いことに目を留める、感謝する、絶えず祈る、軽くなる、新しい自分を発見する。

3. ペアレンティング・コース

五つのセッション

① しっかりとした土台を築く

家族の役割とは何か、家族としてのしっかりとした土台を築くために何を心がければよいのか。

② 子ども達の必要を満たす

子ども達がどんなときでも愛されていると感ずることができるようにするためにはどうすれば良いのか。

③ 境界線を設ける

子ども達がより良い選択ができるように教え、境界線を作ることを学ぶ。子ども達ははっきりした境界線を望んでいるし、それは必要なことだ。境界線を設けてあげることで子ども達は安心を得る。

④ 健全な人間関係の築き方を教える

子どもたちの人生に必要なスキルをどのようにして身につけさせたら良いかということ学ぶ。健全な人間関係を築くためにどうしたらよいのか、有意義な関係を持つにはどうしたらよいのか、怒りをコントロールするにはどのようにするのか。

⑤ 長期的な目標

一番大切なことは何か、私たちが子ども達に伝えたいことは何か、そのためにはどのようにしたら良いのかについて学ぶ。

年代によって二つのコース

- ・ 0歳から10歳までの親のコース、「ペアレンティング・チルドレン・コース」、
- ・ 11歳から18歳までの親のコース、「ペアレンティング・ティーンエイジャー・コース」

6. アルファを通して教会間の協力の祝福

リソース教会として

- ① リレーションシップ・セントラルの資料を翻訳し、日本の文化に適合したテキストを作成し、コースをスタートしている。
- ② 必要な資料を提供している。
- ③ アルファ・コース、マリッジ・コース 離婚、別居リカバリー・コースへの他教会からの参加者、見学者を喜んで歓迎している。この秋にはメンズアルファを実施しているのでどうぞ。
- ④ アルファ・コースをはじめたい教会から依頼があればチームで応援している。

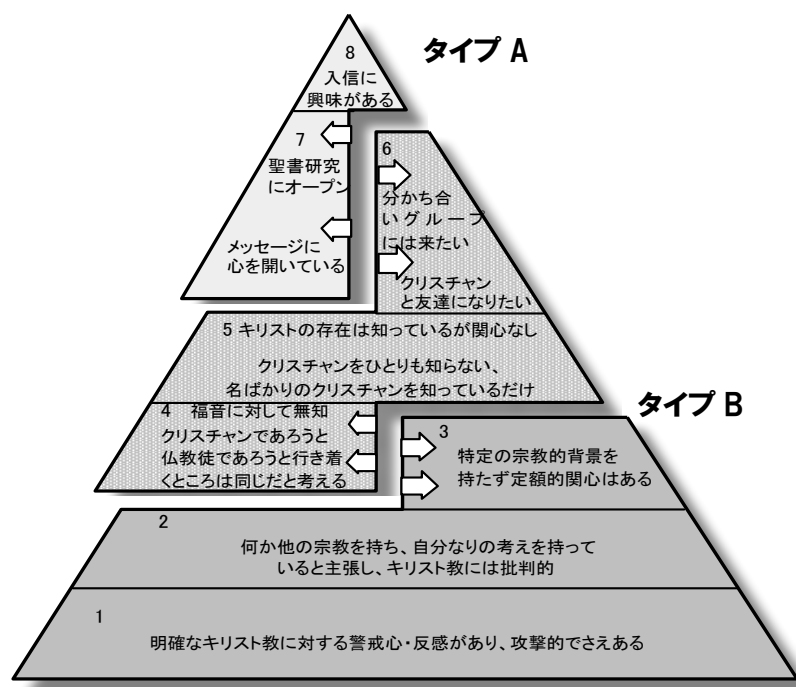
⑤ マリッジ・コース紹介セミナーを持っている。今まで札幌、東京、大阪、沖縄で開催、秋には九州へ出向く予定。このときはアルファ・ジャパンと協力して行っている。

⑥ マリッジ・コース・リトリート

今まで2回、支笏湖近郊で日本中から合わせて30組の牧師夫妻を招待し、マリッジ・コース・リトリートを開催した。自然の豊かな場所で牧師夫妻が歓迎されリラックスし、お互いを見つめる素晴らしいリトリートの時となった。家族の回復をビジョンとして取り組んできた教会として牧師先生達に仕えることができるのは最高の喜びであった。教会の働きは夫婦が真の意味で寄り添い強くされることが鍵である。このビジョンを遂行する中、このためにパートナーを結んでいるシアトル市のウエストミンスター教会等から多くの支援を受けた。

<様式集>

周囲にいる未信者の世界



家族や友人、知人の名前を挙げ、その人の関心や求めを考え、家の教会と個人で祈り続けよう。

タイプ A レベル 8～レベル 7 の人々の名前

タイプ B レベル 6～レベル 1 の人々の名前

家の教会

氏名

私の救いの証し

年 月 日

1. クリスマンになる前、私の人生はこのようなでした。

2. 私がイエス・キリストを信じたとき、具体的にこのようなでした。

3. クリスマンになってから、私の人生はこのように変わりました。

1. 証しについての聖書の教え：ヨハネの手紙第一 1:1-4
 - ① どなたを伝えるのか？ 1v； 救い主イエス・キリスト
 - ② 何を伝えるのか？ 2v； 自分が受けた信仰と永遠のいのち
 - ③ 伝える目的は？ 3v； 家の教会の交わりから主との交わりへ
 - ④ 証しする喜びとは？ 4v； 受けた者が伝える者へと
2. 準備をする。聞く人の忍耐を考え、出来れば1分以内に、3分では長すぎる。
3. 証しするとき。あらゆる機会を捕えて、恐れずに。祈りながら、聖霊の臨在と力を信じて。

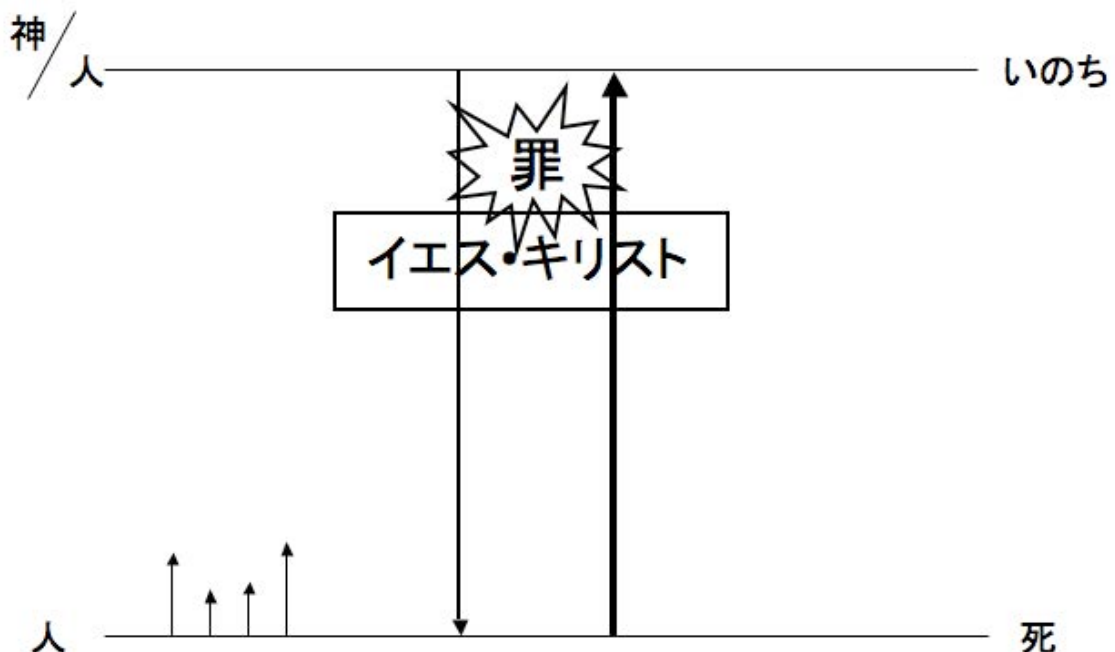
(使徒の働き 1:8)

3.16(サン・テン・イチ・ロク)

I. キリストを分かち合うために

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。
それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、
永遠のいのちを持つためである。
ヨハネの福音書 3 章 16 節

このみことばに基づいて、イエス・キリストを救い主として図を描いて紹介する、個人伝道の道具である。



II. 上図の簡単な手順

- ・神は人を永遠に生きるものとして造られた。
- ・しかし、人は神から離れて生き、その罪のため死ぬものとなっている。
- ・それゆえに、人はかたちで努力をしているが、「あなたは?……」
- ・そこで神は、ひとり子人を人として遣わされ、十字架にかけられた。
- ・身代わりの死を遂げられて、三日目によみがえられた。十字架
- ・それは、罪を赦す神の愛だった。ヨハネ 3:16
- ・あなたも、この救い主を信じ、受け入れてみませんか?

● 詳細は聖書の学び（求道者用テキスト）を参照

バルナバ・ミニストリー

-フォーマット-

日付: 年 月 日
 バルナバを受ける人
 氏名 _____

	個人的成長(Being:存在)	働き・奉仕活動(Doing:行動)
思い巡らす (評価) 神が働こうとすることに		
焦点を合わせる (計画) その具体的なステップ		
必要な助け学び を受ける (資料、相談) そのために必要なこと		
祈りの課題		
次のステップ		

スーパーバイザーの自己評価

年 月 日

	領 域	項 目	自 己 チ ェ ッ ク
1	個人の霊的生活	デボーションを定期的にし、主との交わりは深められているか。	
2		礼拝、デボーション、分ち合い等を通してみことばを受け取っているか。	
3		最近、本を読む等をして、社会一般のことに関して学んだ事があるか。	
4	家の教会生活	メンバーと一緒に時間を共有し、親密な関係を築き上げようとしているか。	
5		新しい人、助けを必要としている人を積極的に助けようとしているか。	
6		インタレスト活動等をして、家族や友人と知り合う楽しい時をもっているか。	
7		リーダーとメンバーのために祈って、毎日のように執り成しているか。	
8		欠席者や病人等と、またはその家族と必要に応じて関わっているか。	
9	良き礼拝者として	礼拝のプログラムに積極的に参加し、進んで応答をしているか。	
10		日曜礼拝を休んだメンバーと連絡を取り、メッセージテープを渡したか。	
11		日曜礼拝に來た新しい人や求道者に関心を払っているか。	
12	スーパーバイザーの働き	SV 会には「小さな牧師」としての意識をもって、備えて出席しているか。	
13		牧師とのバルナバタイムを定期的にもち、霊的な励ましを受けているか。	
14		家の教会とリーダーとに、建て上げと宣教のビジョンを分かち合っているか。	
15		家の教会リーダーと定期的にバルナバをし、励ましをしているか。	
16		仕え人として、自らのあり方を求めて、祈り、学び続ける事に努めているか。	
17	家の教会の集会	自分に属する各家の教会に参加し、それぞれの群れの様子を見守っているか。	
18		4W の流れや原則が生かされて、集会がワクワクするように確認しているか。	
19		オイコスとの関わりを深める活動や工夫や祈りを励ましているか。	
20		ハーベストイベントに向けての日程と手順を確認しながら進めているか。	

家の教会リーダーの自己評価

年 月 日

	領 域	項 目	自 己 チ ェ ッ ク
1	個人の霊的生活	デボーションを定期的にし、主との交わりは深められているか。	
2		礼拝、デボーション、分ち合い等を通してみことばを受け取っているか。	
3		最近、本を読む等をして、社会一般のことに関して学んだ事があるか。	
4	家の教会生活	メンバーと一緒に時間を共有し、親密な関係を築き上げようとしているか。	
5		新しい人、助けを必要としている人を積極的に助けようとしているか。	
6		インタレスト活動等をして、家族や友人と知り合う楽しい時をもっているか。	
7		メンバーのために祈って、毎日のように執り成しているか。	
8		欠席者や病人等と、またはその家族と必要に応じて関わっているか。	
9	良き礼拝者として	礼拝のプログラムに積極的に参加し、進んで応答をしているか。	
10		日曜礼拝を休んだメンバーと連絡をとり、メッセージテープを渡したか。	
11		日曜礼拝に来た新しい人や求道者に関心を払っているか。	
12	リーダーとしての働き	リーダー会にはサブリーダーと連絡をとりながら、必ず出席しているか。	
13		サブリーダーを見習いとして育てるために、いつも行動を共にしているか。	
14		聖餐式は、同じパターンになっていないか。恵みを現わす工夫をしているか。	
15		スーパーバイザーとのバルナバは助けになっているか。サブとのバルナバは。	
16		報告書の提出は遅れていないか。4Wの評価をサブと共にしているか。	
17	家の教会の集会	アイスブレイカーに新しいアイディアが加わり、新鮮なものとなっているか。	
18		ワーシップのリードは霊の流れを意識し、人々を高めているか。	
19		ワークスでの盛り上がりはどうか。オイコスと関わっている証があるか。	
20		ワードでの分ち合いが自由な雰囲気に溢れ、メンバーが励まされているか。	

サブリーダー・インターンの自己評価

年 月 日

	領 域	項 目	自 己 チ ェ ッ ク
1	個人の霊的生活	デボーションを定期的にし、主との交わりは深められているか。	
2		礼拝、デボーション、分ち合い等を通してみことばを受け取っているか。	
3		最近、本を読む等をして、社会一般のことに関して学んだ事があるか。	
4	家の教会生活	メンバーと一緒に時間を共有し、親密な関係を築き上げようとしているか。	
5		新しい人、助けを必要としている人を積極的に助けようとしているか。	
6		インタレスト活動等をして、家族や友人と知り合う楽しい時をもっているか。	
7		メンバーのために祈って、毎日のように執り成しているか。	
8		欠席者や病人等と、またはその家族と必要に応じて関わっているか。	
9	良き礼拝者として	礼拝のプログラムに積極的に参加し、進んで応答をしているか。	
10		日曜礼拝を休んだメンバーと連絡をとり、必要な情報を提供しているか。	
11		日曜礼拝に来た新しい人や求道者に関心を払っているか。	
12	インターンとしての働き	リーダーと連絡をとり、リーダー会には出席しているか。	
13		サブリーダーとして、リーダーから学ぶために行動を共にしているか。	
14		聖餐式には、リーダーの良き助け手となっているか。	
15		リーダーとのバルナバは、自分の成長の助けとなっているか。	
16		リーダーと共に 4W の評価をし、報告書の記入を助けているか。	
17	家の教会の集会々々	アイスブレイカーを新鮮なものとするために、工夫をしているか。	
18		ワーシップのリードは霊の流れを意識し、人々を高めているか。	
19		ワークスでの盛り上がりはどうか。オイコスと関わっている証があるか。	
20		ワードでの分ち合いが自由な雰囲気になれ、メンバーが励まされているか。	

「 宅」家の教会集会の報告書

(記入 年 月 日)

I.集会の概略

- 1.日程: 年 月 日 2.時間: am / pm 時 分～ 時 分
3.会場: 4.メッセージ題:
5.聖書箇所: 6.報告担当:

II.集会の評価

基準から考慮して評価をする。

その記号は 0=良くない 1=やや良くない 2=普通 3=良い 4=非常に良い

各ステージ：4W	評価の記号	特筆すべき事/必要/改善点
WELCOME (担当) 評価の基準 :歓迎度 打ち解け度		
WORSHIP (担当) 評価の基準 :臨在感 霊的高揚度		
WORKS (担当) 評価の基準 :応答度 ビジョンへの献身		
WORD (担当) 評価の基準 :適用度 建て上げの度合い		
備考		

III.出席者氏名(予め出席者の名前を書いておいてチェックしてもよい。)

1.	6.	11.
2.	7.	12.
3.	8.	13.
4.	9.	14.
5.	10.	15.

IV.新来者の報告

氏名(フリガナ)	霊的関心度	住 所	Tel
1.	有・無	〒	() —
2.	有・無	〒	() —
3.	有・無	〒	() —

霊的関心度の基準は、**有**：信仰には関心をもっている。**無**：信仰には関心を示さない。で判断をする。

V.祈りの課題/質問/牧師への報告(洗礼クラスやインタレスト等も必要に応じて)など